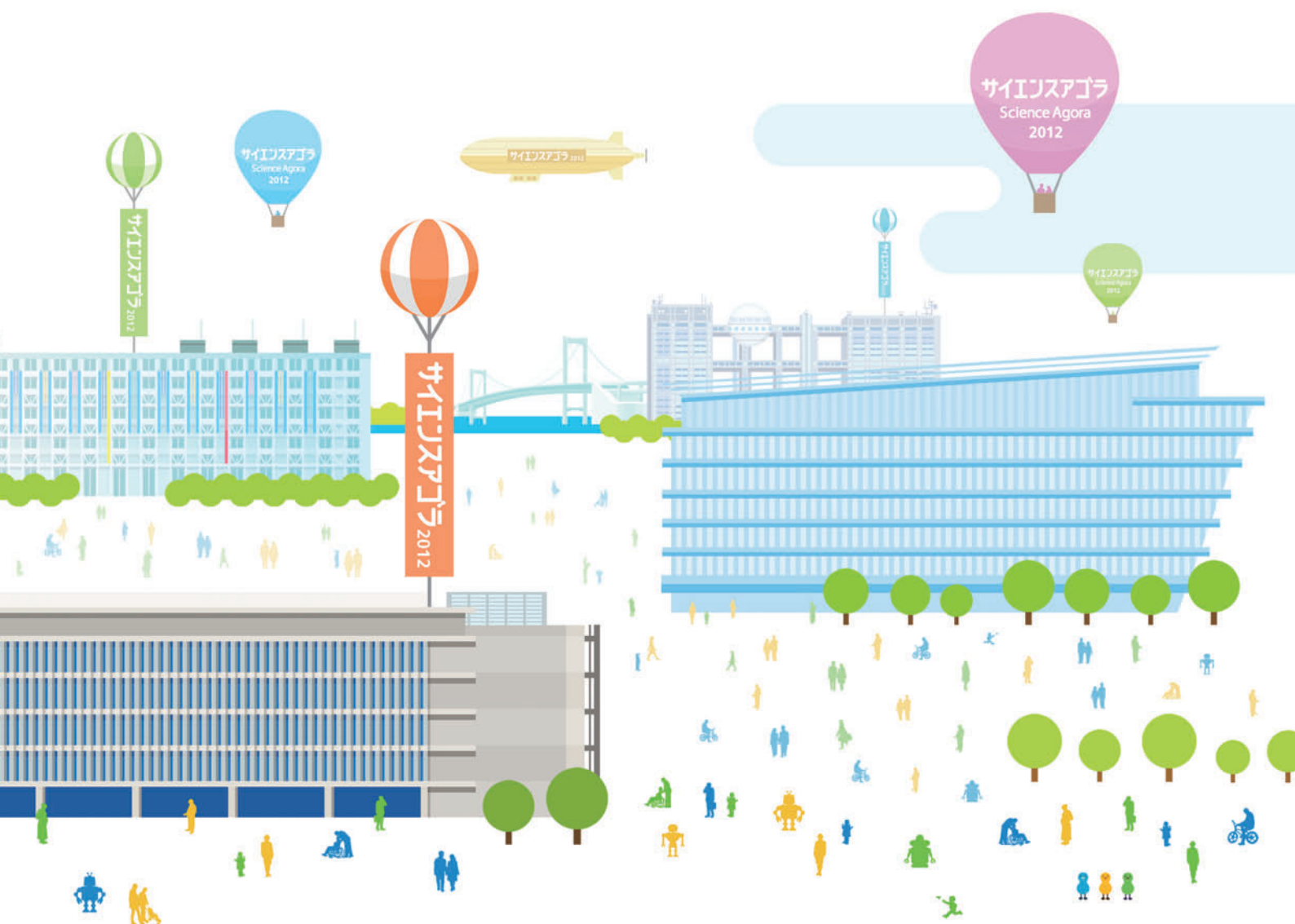


サイエンスアゴラ 2012



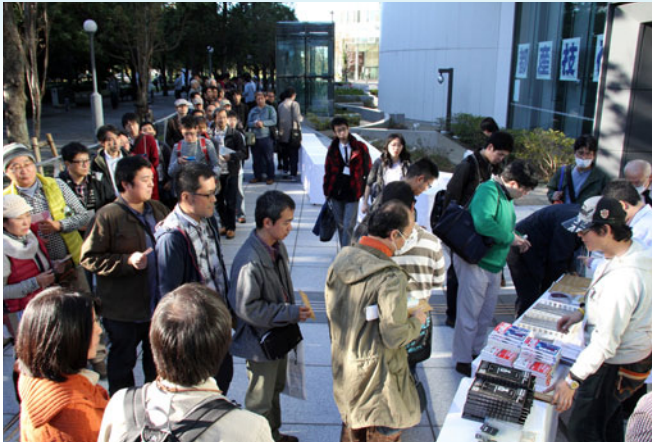
見つけようあなたと「科学」のおつきあい



開催報告書

見つけよう あなたと「科学」のおつきあい





もくじ



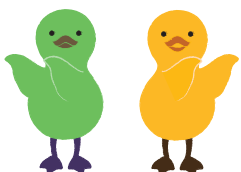
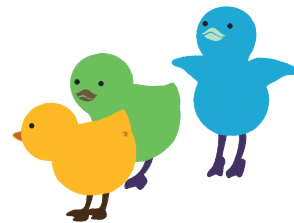
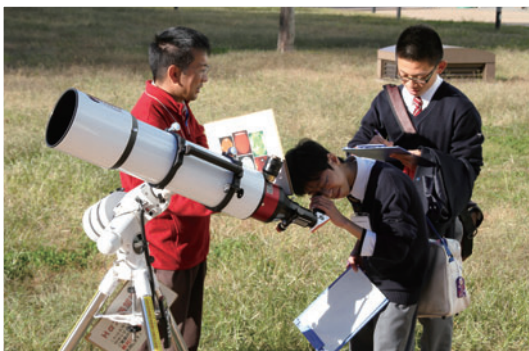
- 002-007 サイエンスアゴラ紹介
- 008-017 セッション報告
- 018-027 実施プログラム一覧
- 028-029 出展者さくいん
- 030 皆さまの声
- 031 次回出展のお誘い



サイエンスアゴラとは



サイエンスアゴラは、「科学と社会をつなぐ科学コミュニケーション実践のための広場“アゴラ”」として、科学技術を活用してよりよい社会を実現するための方策を多角的に論じ合う複合型のイベントです。多様な科学コミュニケーション活動の見本市の役割を果たしています。科学コミュニケーションを通して、本当に社会に役立つ智を創り出すことに貢献します。



開催趣旨

サイエンスアゴラ 2012 のテーマは、『見つけよう あなたと「科学」のおつきあい』です。科学技術は暮らしを豊かにする道具にもなりますが、ときとして暮らしを脅かす存在にもなります。東日本大震災やそれに続く原子力発電所の事故を経験した今、科学技術とどう関わるかの「おつきあい」も見つける必要があります。そして何を選択するか判断するために、科学コミュニケーション手法を真に社会に役立つものにするのが求められます。今回のサイエンスアゴラでは、企画テーマを整理し、従来の分類に加えて新しい分野を切りひらき、将来に向かった方向性を示すことにも取り組みます。

開催方針

サイエンスアゴラが変わります。科学コミュニケーションセンターでは、理論と実践を有機的につなげ、本当に社会に役立つ智を創り出すことに貢献していきます。その一環として、サイエンスアゴラを皆さんと一緒に大きく進化させたいと思います。震災後、科学技術とどう関わるか、そして何を選択するか判断するために、科学コミュニケーション手法を真に社会に役立つものにするのが求められます。

(1) 「伝える」とともに「つくる」へ広げる

科学への理解や楽しさを「伝える」ためのコミュニケーションとともに、豊かな社会を「つくる」ためのコミュニケーションを広げていきます。

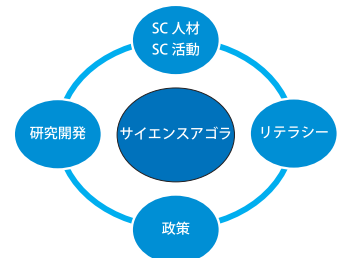
(2) 交流促進と発展活動

サイエンスアゴラは、多様な科学コミュニケーション活動の「見本市」の役割を果たしています。サイエンスアゴラでの交流から新たな連携が発展し、全国各地域において科学コミュニケーションが活性化するような発展にも期待します。

サイエンスアゴラの歩み・歴史

[1] 第3期科学技術基本計画（2006-2010）のもとで

第3期科学技術基本計画（H18～22年）において「国民に支持される科学技術」、「科学技術のコミュニケーション促進」が謳われました。サイエンスアゴラは、その実現を図るために、科学コミュニケーション実践・試行のためのひろば、科学技術を活用してよりよい社会を実現するための方策を多角的に論じ合う複合型のイベントとして、2006年（H18年）に開始されました。まず、全国で個別に活動する団体や個人が集結することを目指しました。さらに、関心層の拡大、多様性の拡大を図りつつ、毎年進化を続け、科学技術理解増進とともに科学技術と社会のあり方に関する議論を喚起することを目指した取り組みを展開しました。



[2] 東日本大震災と第4期科学技術基本計画（2011-2015）

第4期科学技術基本計画を策定中の2011年3月11日、東日本大震災が起きました。大震災の甚大な自然災害と、それに続く原子力発電所の事故を経験しました。私たちは一人ひとりが、科学技術とどうかかわり、何を選択していくかが問われるようになりました。8月に閣議決定された第4期科学技術基本計画（H23～27年）では、「V. 社会とともに創り進める政策の展開」のなかに、(1) 国民の視点に基づく科学技術イノベーション政策の推進、(2) 科学技術コミュニケーション活動の推進、が記載されました。

その直後に開催されたサイエンスアゴラ 2011 では、震災からの復興とともに科学技術との関わり方を考える機会となるように、特に地震・津波・原発事故などのリスクに対する問題をともに考えるシンポジウムやトークセッションなどの企画にも力を入れました。

2012年4月、JSTに科学コミュニケーションセンター（p.8 [資料1] 参照）が設置され、新たな展開をプロデュースしました。

第1回	2006年（11/25～27）	科学と社会をつなぐ広場をつくる	（科学コミュニケーターを集結）
第2回	2007年（11/23～25）	みんなでつなごう未来のスイッチ	（関心層の拡大）
第3回	2008年（11/22～24）	地球の未来 日本からの提案	（多様性の拡大）
第4回	2009年（10/31～11/3）	地球の未来 日本からの提案Ⅱ	（メッセージの発信）
第5回	2010年（11/19～21）	未来へつなぐ科学のひろば	（新たなセクターの呼び込み）
第6回	2011年（11/18～20）	新たな科学のタネをまこうー震災からの再生をめざして	（多様な参加者による創発の場づくり）
第7回	2012年（11/10～11）	見つけよう あなたと「科学」のおつきあい	（「伝える」から「つくる」へ広げる）

開催概要

日程 2012年11月10日(土)、11日(日)

会場 日本科学未来館、産業技術総合研究所臨海副都心センター、東京都立産業技術研究センター、シンボルプロムナード公園、東京国際交流館

主催 独立行政法人科学技術振興機構(JST)

共催 日本学術会議、独立行政法人産業技術総合研究所、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター、国際研究交流大学村、東京臨海副都心グループ

協力 株式会社フジテレビジョン

後援 内閣府、文部科学省、農林水産省、独立行政法人国立科学博物館、独立行政法人日本学術振興会、独立行政法人理化学研究所、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人海洋研究開発機構、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館、プリティッシュ・カウンシル、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、千葉県教育委員会、全国中学校理科教育研究会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、公益社団法人日本技術士会

参加者数

計 6,255 人

【参加者数内訳】

(単位:人)

	11/10(土)	11/11(日)	計
来場者数	1,755 ^{*1}	2,257 ^{*1,2}	4,012
出展者数	2,243 ^{*3}		2,243

*1 来場者カード配布数

*2 11/10、11(土日)両日來場の120人を含むのべ人数

*3 出展者バッジ配布数

出展団体数

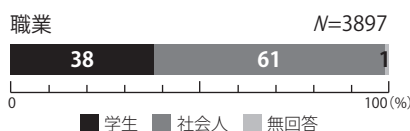
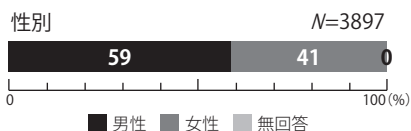
計191団体

プログラム数

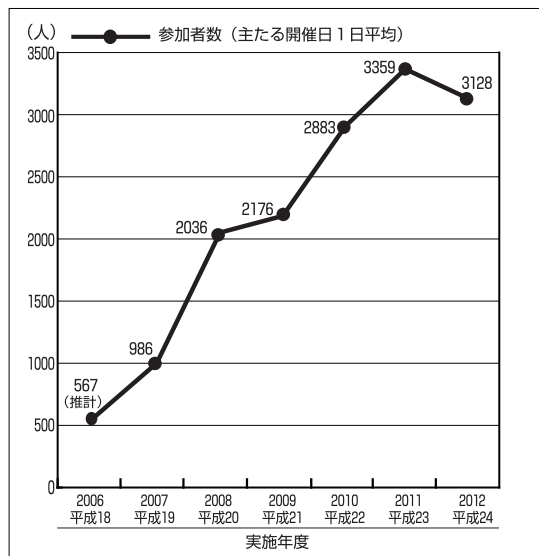
計212プログラム

出展団体・プログラムのリストや内訳などの詳細は、本報告書18~29ページ(実施プログラム一覧、出展者さくいん)や公式ウェブサイトをご参照ください。

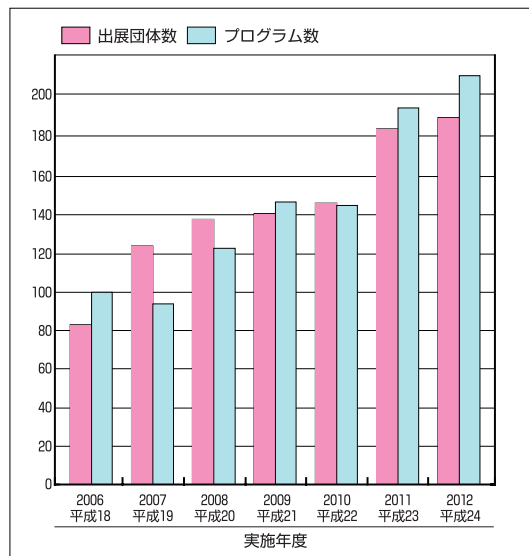
>> <http://scienceagora.org/>



過去7年間の参加者数



過去7年間の出展団体数・プログラム数



広報・運営面での主な取り組み

チラシ・ポスター配布

「親子連れ・学校教員」「一般・サイエンスコミュニケーション関係者」のターゲット別チラシを学校(江東・品川・港の各区を重視)、幼稚園(江東・港の各区を重視)、科学館・博物館、図書館、大学・研究機関、各地のサイエンスイベント、JST制作の科学教育誌「Science Window」への折込、JSTイベント等で計約8万5千枚配布。ポスターは「一般」向けを計1千枚配布。

媒体への掲載

科学系雑誌、区報イベント情報を掲載するとともに、フジテレビの番組「プレミアの巣窟」で紹介。プレスリリースも実施(9月28日付)。

【主な露出実績】産経新聞、文教ニュース、理科教育ニュース、JST news

その他運営面での取り組み

ターゲットやテーマごとの会場ゾーニングの設定、出展者の相互投票によるサイエンスアゴラ賞の実施(→14ページ参照)、物販コーナーの設置、出展者交流会の開催(11月10日)、など。

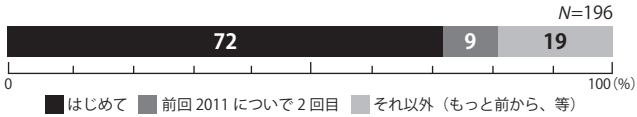
※詳細はサイエンスアゴラ公式ウェブサイト <http://scienceagora.org/> をご参照ください。

来場者アンケート結果

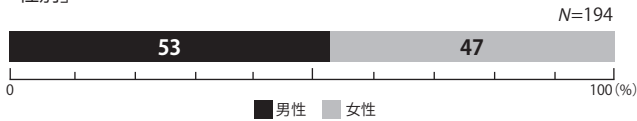
調査方法：全来場者を対象に受付にてアンケート用紙を配布。会場で回収。
 調査期間：2012年11月10日(土)、11日(日)
 回答数：205(対象数3,892、回収率5.3%)

設問 「あなたについて教えてください。」

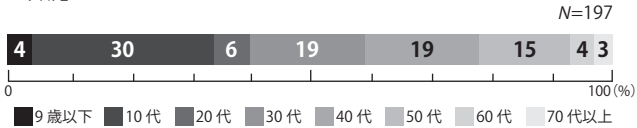
「サイエンスアゴラへの来場は…」



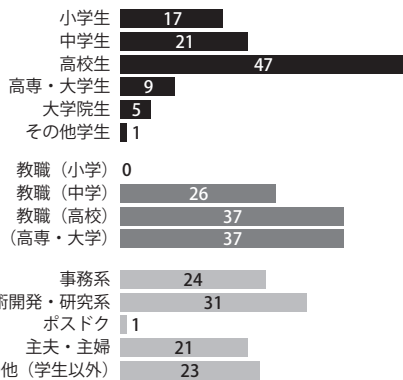
「性別」



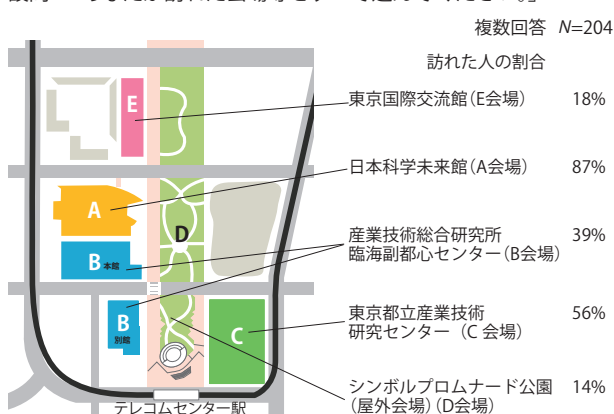
「年齢」



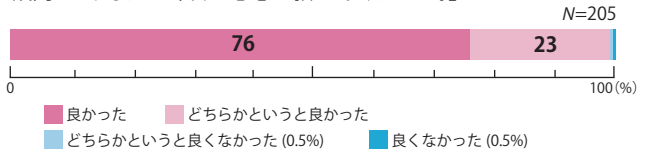
「職業」



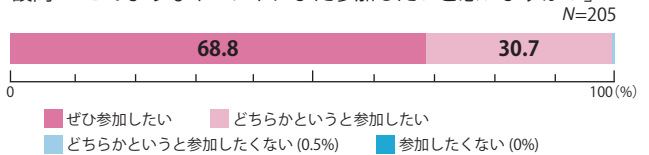
設問 「あなたが訪れた会場等をすべて選んでください。」



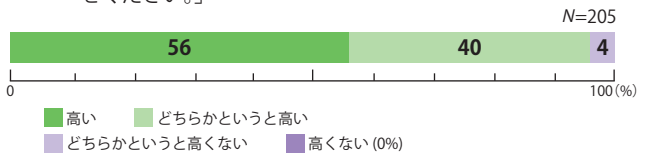
設問 「あなたの今日の感想を教えてください。」



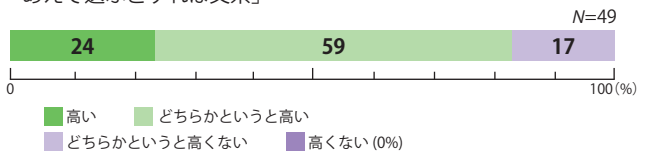
設問 「このようなイベントにまた参加したいと思いますか？」



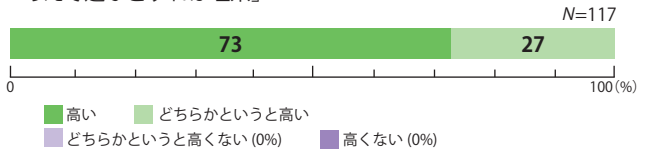
設問 「あなたの自然や科学技術への興味や関心の程度をお聞かせください。」



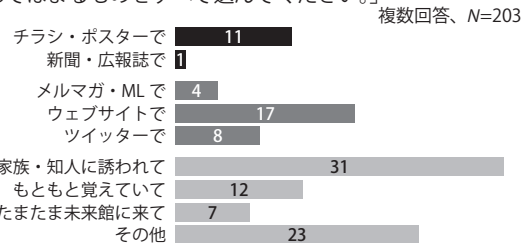
「あえて選ぶとすれば文系」



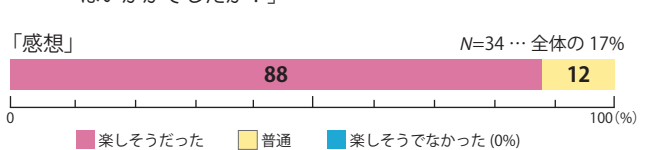
「あえて選ぶとすれば理系」



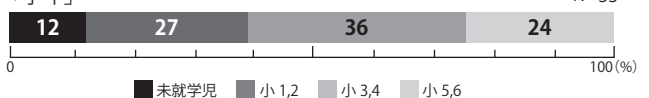
設問 「あなたはサイエンスアゴラ2012をどこで知りましたか？あてはまるものをすべて選んでください。」



設問 「【小学生以下のお子様をお連れの方のみ】お子様のご様子はいかがでしたか？」



「学年」

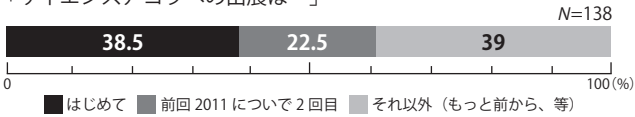


出展者アンケート結果

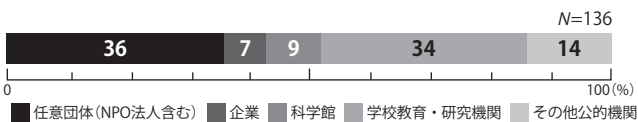
調査方法：全出展者を対象にオンラインフォームから回答受付。
 調査期間：2012年11月16日(金)～27日(火)
 回答数：140

設問「あなたについて教えてください。」

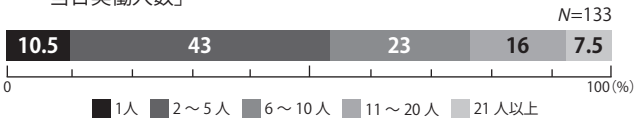
「サイエンスアゴラへの出展は…」



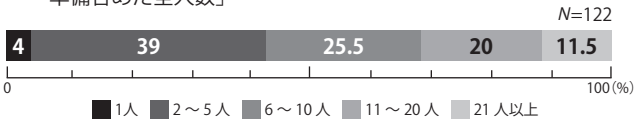
「ご出展主催者の分類として適切なものを1つだけ選んでください。(複数機関の共催でも1つだけをお願いします)」



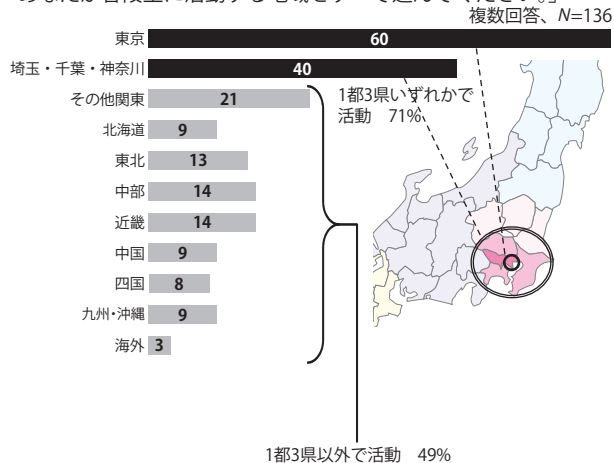
「ご出展に関わった方々の人数を教えてください。—当日実働人数」



「ご出展に関わった方々の人数を教えてください。—準備含めた全人数」



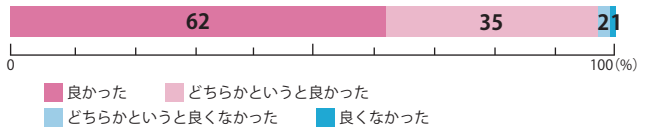
「あなたが普段主に活動する地域をすべて選んでください。」



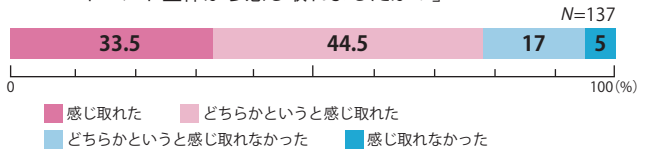
次回出展・参加者へのメッセージ

- ・ 科学技術交流・出展者同士の交流ができるまとまりある機会です。単独でイベントを行うより、相乗効果もあります。
- ・ 出展により得ることはたくさんあります。生徒にとって大きく成長する機会となりました。
- ・ 少し遠いかもしれませんが、関東地方以外の方も是非参加してほしいです。私も関東以外からの出展ですが、毎年うれしい発見があります。

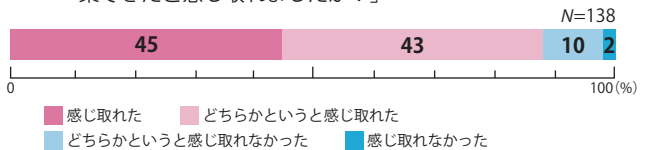
設問「あなたのサイエンスアゴラ2012への感想を教えてください。」



設問「あなたは、サイエンスアゴラ2012の全体テーマ『見つけようあなたと「科学」のおつきあい』の精神がイベント全体から感じ取れましたか？」

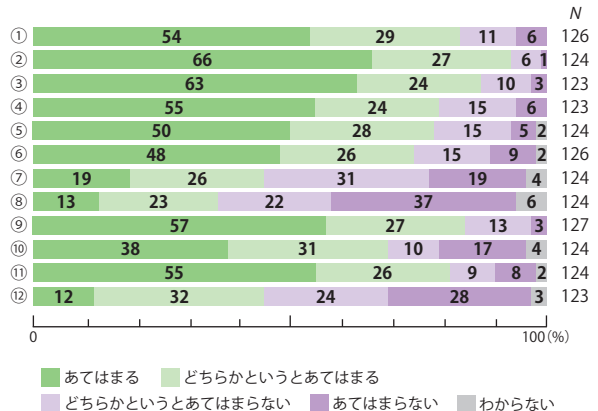


設問「あなたは、今後の活動につながる新しいネットワークを構築できたと感じ取れましたか？」



設問「あなたがサイエンスアゴラ2012に出展した目的・動機を教えてください。」

- ① 多様な出展者と出会うため
- ② 多様な来場者と出会うため
- ③ サイエンスを楽しむ・楽しんでもらうため
- ④ サイエンスを学ぶ・学んでもらうため
- ⑤ 広くサイエンスと社会との関係について考えたり語り合ったりするため
- ⑥ サイエンスコミュニケーションのスキルアップ・ノウハウ共有のため
- ⑦ サイエンスコミュニケーション人材の発見・発掘のため
- ⑧ ビジネスにつなげるため
- ⑨ 理科教育・科学教育につなげるため
- ⑩ 研究成果を多くの人々に知ってもらうため
- ⑪ 主催者のふだんの活動を知ってもらうため
- ⑫ 主催者の活動実績として報告書等に記載するため

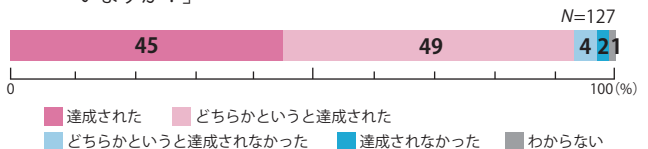


その他の目的・動機

- 「全国に散らばる会員との交流の場として」
- 「広報として：今後の活動の方向性・切り口を探るためのニーズ調査」
- 「生徒達の成果発表の場、学びの場とするため」

アンケートより抜粋

設問「出展した目的は、振り返ってみてどの程度達成されたと思いますか？」



・・・その他フリーコメントは30ページへ

開幕シンポジウム

豊かな将来社会をともに「つくる」ために、一般の人々に本当に役立つ科学コミュニケーションを実現する必要があります。科学技術とどうかかわり、何を選択していくか、私たちの判断は将来の社会に対する責任を担っているのです。開幕シンポジウムでは、この趣旨を共有して何をすべきかを論じ合いました。

開幕挨拶 中村 道治 (科学技術振興機構理事長)

来賓挨拶 土屋 定之 (文部科学省科学技術・学術政策局長)

パネル討論 「伝える」から「つくる」科学コミュニケーションへ

パネリスト 毛利 衛 (科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター長)

若松 征男 (東京電機大学 教授)

大島 まり (東京大学 教授)

コーディネーター 佐倉 統 (東京大学 教授)



話題提供 毛利 衛 (科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター長)

テーマの「伝える」と「つくる」について、毛利さんは「皆さんに共有感を持ってほしい」と、科学コミュニケーションセンターを紹介して、皆さんと一緒に事業を進めていく側の立場からの話がありました (資料1 参照)。

研究者が自分の知識を一般の方々に理解してもらい、知識や楽しさを「伝える」という科学コミュニケーションは非常に重要です。アゴラでも多くの企画が展開されています。一方、例えばiPS細胞では、個人的な研究者の知識的なものが伝わればよいという発想から、それが社会に何をもたらすのか、一般市民がどのように受け入れて将来社会をともに「つくる」のか、という広がりも必要になります。これからは「伝える」とともに、「つくる」へ科学コミュニケーションの範囲を広げていきたいと考えています (資料2 参照)。

科学コミュニケーションでは、発信する内容や意図が社会において伝わっているか、今回起きたさまざまな問題を解決する方向に役立っているかについても問う必要があります。最終的には、社会をつくっている行政、政治の方々とともに、日本の将来社会をともに「つくる」ことを、それぞれの人が納得感を持って、なおかつ事実をもとに、科学的な考え方で、本当に実現しなければなりません。その中で、科学コミュニケーションの役割が大きいのではないのでしょうか。そこに、科学コミュニケーション事業の目的があります。

大切なのは「専門家と一般の人々が集う」ということです。さまざまな地球規模の課題や、私たちが直面している課題があります。ピックアップチャームをもって、これから、「誰が」、「何を」、「どのように」実践したらいいのか、皆さんと考えて具現化して、実際に一緒につくっていききたいと思います。



パネルディスカッション 「伝える」から「つくる」科学コミュニケーションへ

話題提供に続き、佐倉さんのコーディネートでパネルディスカッションが実施され、テーマについて、大震災の課題をふまえて科学コミュニケーションをどのように変えていくかの視点から議論が始まりました。

■価値判断・意思決定と市民参加

大島さんは研究者・科学者の立場から、大震災後に研究者としての解釈を求められるようになり、それが多様な解釈のひとつでも、一般市民にはどのように受け止められるかの認識が研究者にも必要になったことを挙げました。佐倉さんは、データから離れず自分の予断や価値観を反映させないことをよしとするという研究者のトレーニングに触れ、これまでの科学者養成だけでは間に合わない要求があると捉えました。若松さんは、解釈を価値判断と言い替え、一人ひとりの「価値判断」と、

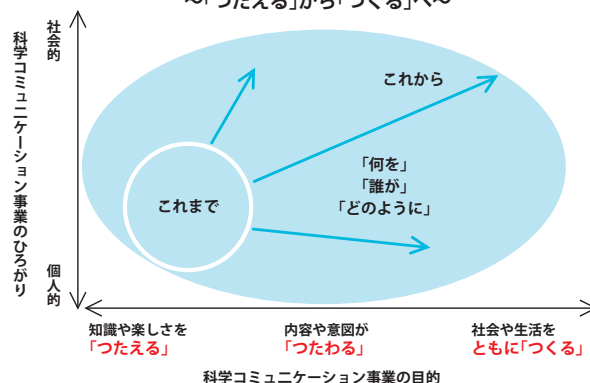
[資料1] 科学コミュニケーションセンター

2011年の東日本大震災とそれに続く原子力発電所の事故を経験した今、私たち一人ひとりが科学技術とどうかかわり、何を選択していくかが問われています。その判断が、政治や行政を動かし、私たちの暮らしのみならず、国際社会や未来を支える子どもたちの代にも影響を与えます。私たちは将来の社会に対する責任を担っています。

残念ながら、科学技術を取り巻くさまざまなコミュニケーションにはミゾがあります。それを解消しなくてはなりません。今、私たちが必要としているのは、一般の人々にとって本当に役立つコミュニケーションです。その実践・普及・体系化を通して社会に貢献していくことを目指し、科学コミュニケーションセンターは設立されました (2012年4月)。

[資料2]

科学コミュニケーションの多様化 ～「つたえる」から「つくる」へ～



規制するかどうかの「意思決定」を市民参加の視点から論じました。今までは、行政がお膳立て、専門家が素材提供、政治の場で意思決定となり、この流れの中では市民参加の機会がまだ少ない状況だそうです。一般市民とともに「つくる」コミュニケーションのひとつの形である「コンセンサス会議」が紹介されました。そこでは、利害関係者の参加、専門家の情報提供、熟議の場は用意されており、議論した結果を政策決定・社会としてどう使うかが課題になっています。

■将来社会をともに「つくる」ための科学コミュニケーション

毛利さんは、「政策や法律に反映させるところまでいかない」と思うと、科学者だけでなく、法律や心理学を含む多様な専門家を巻き込んだ展開を論じ、どうつなげるかの専門家も必要になると指摘しました。大島さんも、科学技術、経済、政策など多様な専門家を横軸と考え、ローカルからナショナルへの縦軸への展開につなげることの重要性を述べました。

会場も参加してディスカッションが展開され、価値観の多様性、研究者個人の価値判断と科学者コミュニティの責任、一般市民のバイアス、非常事態と短期的・中長期的な課題の整理など、将来社会をともに「つくる」ための科学コミュニケーションに具体的に取り組む立場から、パネリストとの活発な議論がありました。また、「危機管理だけでなく、科学の本質を忘れないように」と、日本社会で共有すべき問題や、基礎科学の大切さも指摘されました。

パネルディスカッションを通してテーマへの理解を深めるとともに、取り組むべき課題が浮き彫りになり、サイエンスアゴラとこれからの科学コミュニケーションについて、果たすべき役割と具体的な活動を考える機会となりました。



総括セッション

- コーディネーター 渡辺 政隆 (筑波大学)
- アドバイザー 北原 和夫 (東京理科大学)
- ゾーン統括
 - にぎわいゾーン(終日出展) 高安 礼士(全国科学博物館振興財団)
 - にぎわいゾーン(時間枠出展) 高梨 直紘(東京大学)
- 研究者ゾーン 小泉 周(自然科学研究機構生理学研究所)
- 地域連携ゾーン 大高 一雄(千葉市科学館)
- 生徒発表・教員交流ゾーン 小川 雄一(東京大学)



総括セッションでは渡辺さんのコーディネートによりゾーン報告と総合討論が行われました。各担当者からのゾーン報告を中心に要点を記載します。

ゾーン報告

■「にぎわいゾーン(終日出展)」担当：高安さん

展示内容は工夫が見られ、客対応が品の良いところが多く、心温まる思いで回った。インタビューでは、全部教えたがるタイプと、相手の反応を良く見て話し方を工夫するタイプがあり、後者が多かった。「日ごろの活動」を踏まえた出展が多い。科学コミュニケーションの他の領域のことを知らない方もいるようなので、他の領域の情報が流通するしくみをつくるとよい。

■「にぎわいゾーン(時間枠出展)」担当：高梨さん

すでに体系化された知を「伝える」観点としては、テクニカルな部分から思想的な部分まで、幅広く議論が行われていた。一方、「つくる」観点としては、答えを求める事が簡単ではない課題にもひるまずに前向きな議論を行う場面が見られた。「伝える」「つくる」がうまく機能していたと思う。参加者の少ない会場については、広報を工夫できるとよい。

■「研究者ゾーン」担当：小泉さん

学会で出会うような、若い研究者、大学生、大学院生が積極的に市民と対話していた。他のゾーンを含む研究者の出展も含め、いいネタがあるのに魅力的に見せられていない場面に出会い、研究者にアドバイスするしくみがあるとよいと思う。ゾーン内での交流はやりやすかった。他ゾーンへの訪問交流は少なかったが、他ゾーンからの訪問企画などを受け入れていた。

■「地域連携ゾーン」担当：大高さん

日頃から地域に密着した経験を生かして、楽しませながら「伝える」うまい対応をしていた。「つくる」観点では、学校の先生との活動や研修に意欲的な出展者が多かった。教員研修の担当者がアゴラに来れば、研修形態やテーマや講師探しで思いあぐねることが相当程度その場で解決できるであろう。もったいない現状から見て、アゴラへの中高教員の参加・参観の仕掛けが有効と思う。ゾーン内では、今後の展開につながる交流が密にできて非常によかった。

■「生徒発表・教員交流ゾーン」担当：小川さん

高校生が午前中に発表し、午後はリラックスして他ゾーンを楽しみ、全員がレポートを提出していた(1日目)。いい発想だ。音楽コースの女子生徒が印象的で、一年間の科学活動参加がとても面白かったと発表していた。理系へ進まない者が科学に触れることは非常に重要。将来の社会のつくり手となる高校生はターゲットにする価値がある。このレベルは引率教員にも刺激となる。

総合討論

会場ゾーニングについて各ゾーンの意見を聞いた上で、渡辺さんは「そこに行けばいろんな人と知り合えて、自分たちにも力を貸してもらえ。本来、アゴラはそういう機能を持たせたいのでゾーン分けは有効だった」とまとめました。北原さんは「高校生がものすごく大事」と自分たちの社会をつくることを語り合う高校生ディベートを例に国際的な発展にも期待しました。その他、研究者参加促進、学校や教員の参加促進、地域活動への発展、会場レイアウトとプログラム構成、ゾーン間交流、出展者向けの研修、テーマ設定や全体企画への外部メンバー参加など、多様な課題について具体的な対策が論じられました。渡辺さんは、試行実験の場としてのアゴラ活用を述べ、「今年の試みを活かして今後のサイエンスアゴラにつなげるように」と締めくくりました。

会場ゾーニング

サイエンスアゴラは、多様な科学コミュニケーション活動の「見本市」の役割を果たしています。サイエンスアゴラでの交流から新たな連携が発展し、全国各地域における自立的な科学コミュニケーション活動を活性化するような発展の仕掛けとして、会場ゾーニングを工夫しました。従来の公募出展（終日出展・時間枠出展）の会場を「にぎわいゾーン」と呼ぶこととし、新たに3つの「特設ゾーン」と、「ウェルカムゾーン」を設けました。特設ゾーンは、「研究者ゾーン」「地域連携ゾーン」「生徒発表・教員交流ゾーン」としました。これは、分野や地域のネットワークづくり、および多層間の連携促進につながるように、8つのネットワークの分類（研究者、メディア、学校、科学館、ボランティア、来場者、行政府、企業）をベースに今回の実施が可能なゾーンを検討したものです。

特設ゾーン

■ [特設] 研究者ゾーン

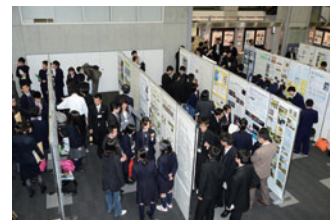
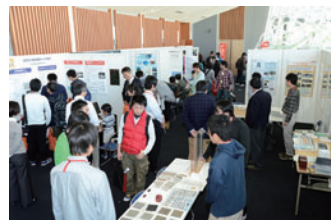
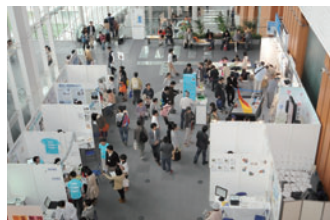
研究者の顔が見える研究機関等のブースを集めました。専門家と一般の人々が集う場が特徴です。私たちが直面している課題についても、事実にもとづいて将来を見通す、科学的なものの考え方を示す専門家の役割が非常に重要になります。研究者有志チームが「研究者リレープレゼンテーション」を実施し、「高校生の研究者ゾーン訪問」などのゾーン間の連携企画も受け入れました。

■ [特設] 地域連携ゾーン

地域連携の拠点となる科学館・博物館や、連携に意欲的な学校・研究機関等の出展を集めました。ゾーン内では展示製作・貸出やイベント実施をはじめ、有用な地域連携情報が交換でき、アゴラ出展者には地域科学館等での出展相談もしやすくなります。科学館有志チームでは、「アゴラを取材して地域で使える企画を考えよう」という他のゾーンも活用した企画を実施して、見本市としてのアゴラの活用も促進しました。

■ [特設] 生徒発表・教員交流ゾーン

校外機関と連携した科学教育に取り組む学校には、活動実現のためにさまざまな工夫をしている先生がいます。サイエンスアゴラが、生徒発表の機会となるだけでなく、意欲的な先生同士の交流、連携先となる研究者や機関との出会いの場となることを期待して、生徒発表・教員交流のゾーンを設けました。1日目は、教員有志チームと研究者アドバイザーによる自立的な企画運営が行われました。2日目には、JST 支援事業と連携して、生徒・教員のサイエンスアゴラへの参加を促進しました。



特設 研究者ゾーン



研究者有志チーム 研究者リレープレゼンテーション (Aa-222)

神田昌枝さん（東海大学理学部）

サイエンスアゴラの幅広い年齢層へのプレゼンテーションは研究者にも貴重な経験です。研究者が博士姿やヒーロー姿などに仮装して、固いイメージを払拭した上で研究の説明につなげたり、来場者の年齢層に合わせてその場で発表方法を変えたり、発表者ごとの工夫が見られました。親しみやすい雰囲気となり質疑は活発でした。高校生も各々研修課題をもって多数来場し、ゾーン内の研究者ブースでも質問が続きました。次回は、企画名の「研究者」が難しい印象を与えるようなので、親しみや笑いのある名前を工夫したいと思います。



科学館有志チーム 科学館連携「アゴラを取材して地域で使える企画を 考えよう」(Aa-243)

代島慶一さん(静岡科学館・く・る 科学コミュニケーター)

本企画は、あまりに広いアゴラの会場を一人では全部見て回れないもどかしさから、情報共有をしようと関東以外から参加をしている科学コミュニケーター・科学館スタッフの方をターゲットに行いました。参加者は静岡と兵庫の合計9名。それぞれ会場を見て回り、最後に集まって、こんな面白い出展があったと報告したり、静岡だったら、兵庫だったらというアイデアを出し合いました。静岡からは静岡科学館科学コミュニケーター育成講座の受講生が参加し、どうやって継続的に活動をしているのか取材をしたり、実際に講師出演交渉をしたりと有意義な時間となりました。



人体にときめけ！ドキドキハートランド (Aa-242)

中村信彦さん(川崎医科大学現代医学教育博物館)

本物の臓器の観察(人・豚・牛の心臓標本)や心音聴診など体験型の展示を重視しました。当館の展示物は職員が自作するため、展示規模や対象に応じて自由に製作できます。アイキャッチの巨大心臓模型(1m四方)は今回のために3ヶ月で作りました。来場者全員に「心臓クイズ」を手渡す工夫が来場者との対話の促進に役立ちました。地域連携ゾーンでは、科学館などの出展者と展示制作や貸出など貴重な情報交換ができ、アゴラ終了後も施設見学の連絡をいただいています。今後、企画展での協力など連携の糸口が得られました。



教員有志チーム 高校生の研究者ゾーン訪問研修(学校) (Ca-721)

塩原めぐみさん(埼玉県立伊奈学園総合高等学校 教諭)

特設ゾーン間の連携企画で、生徒発表・教員交流ゾーンで発表した生徒たちが、研究者ゾーンを訪問し、研究者リレープレゼンテーションへの参加や、研究者ブースでの対話をワークシートに記録するなどの研修をしました。この研修で、生徒たちは、「知識がすごく広がる」「研究への情熱を感じた」「あきらめずに続けることが大切」と、研究だけでなく、研究者の方々の人柄や思いにも触れていました。教員有志チームと研究者有志チームとの連携は、これから校外連携による科学活動の発展にも活用できそうです。



児童生徒の先進科学研究発表会 (Ca-719)

JST 理数学習支援センター

科学研究を行っている小・中・高校生約200名が、研究成果をポスター発表しました。発表内容は理数全般にわたり、学校の科学部チームで達成した成果を発表するグループもいれば、大学の研究室で個人研究を行って発表する児童生徒もいました。参加した児童生徒・指導教員(科学部顧問や大学教員)間の意見交換のみならず、一般来場者との交流が積極的に行われ、特に児童生徒にとっては刺激の多い発表会となりました。今後は、ここで得た情報や人的つながりをもとに、研究や知的探究心がより深まっていくことを期待しています。

ウェルカムゾーン

サイエンスアゴラの開催趣旨・開催方針の紹介とともに、豊かな社会を「つくる」ための科学コミュニケーションを考え、語り合うことに触れるゾーンを形成しました。コンセプトを共有して各ゾーンへ来場者を誘導する場を設けました。



企画展「世界の終わりのものがたり」エピローグ (Aa-001)

森田由子さん（日本科学未来館 科学コミュニケーター）

今回の出展は、科学に関する厳選した23の「問い」と本展来場者の回答データに、サイエンスアゴラの来場者が「問い」に答えるしゅみを組み合わせた展示でした。見過ごされたら…との心配は杞憂で、本来意図していなかったスペースにまで書き込みをしていただけました。面と向かっての討論は瞬発力と気迫がいりますが、この方法ならゆったり発言できます。未来館が目指す、「科学コミュニケーションの場作り」としての展示を、限られた予算とスペースでどこまで探求できるか、という挑戦であり、提案でした。具体的な計画はありませんが、こうした方法で、同じ問いについて同時多発的に“対話”できたら…と考えています。

にぎわいゾーン

公募企画の各会場を「にぎわいゾーン」と呼びます。子ども・一般来場者を意識した企画や、会議室・ホールでの発表や討論等の企画を集めました。



じょうぶな橋を作ろう (Aa-052)

坂井英明さん（三菱電機株式会社）

三菱電機では、電波望遠鏡、人工衛星などでトラス構造を採用しています。そのトラス構造を適用しており、子どもも良く知っているトラス橋製作を通して、軽くてじょうぶなトラス構造を勉強してもらいたいと思い、出展しました。まず、梁（はり）1本外すだけで、大きく橋はゆがんでしまう様子を実験、パソコン上でのシミュレーションで確認してもらいました。軽さと少ないたわみを追求し、どのチームも大きな盛り上がりを見せ、個性的な橋を作ってくれました。中には、アーチ橋の要素を含め強い橋を作り、出展者の想像を超える橋も出現し楽しいものでした。



ポッドキャストで科学とつきあう (Ab-302)

～あのワクワクした科学はどう実現されたのか～

中西貴之さん（インターネットラジオ局くりらじ）

今回はテーマにちなんで、科学情報の発信手段の一つとして海外では一般的になっているものの日本ではまだ認知度の低いポッドキャストとのお付き合いを提案しようというのがコンセプトでした。当日はファンの皆さんを中心に300人近い方にお集まりいただき、ポッドキャスト科学情報番組「ヴォイニッチの科学書」の公開収録を行いました。子どもの頃にワクワクした未来技術が、現在の最新科学でどのように実現されようとしているのかについて、画像も交えて紹介しました。皆さん童心に返ってお楽しみいただけたのではないかと思います。



共に語ろう、東日本大震災後の海洋科学研究と教育 (Bb-653)

市川洋さん（日本海洋学会 教育問題研究会）

科学者に対する信頼が大きく損なわれたとはいえ、東日本大震災後の安心・安全な国民生活の実現には科学技術の貢献が不可欠であろう。このような状況において、『見つけよう あなたと「科学」のおつきあい』という全体テーマに応え、日本海洋学会会員と海洋科学を専門としない研究者が集い、今後の海洋科学の教育・研究の在り方について意見交換することを目的として本シンポジウムを開催した。一般からの参加者は少なかったものの、参加した海洋学会員にとっては、社会に対する学会からの情報発信の重要性を再認識する有意義な機会となったように思う。



科学を街に～科学フェスティバルの創り方～ (Ab-355)

渡辺政隆さん (筑波大学広報室教授)

20年近い歴史をもつ「青少年のための科学の祭典」が各地で根付いている一方で、地域全体、大人も巻き込んで実施する新しいタイプの科学フェスティバルが芽生えつつある。これは世界的な傾向で、国内でも各地に派生することが期待される。そこで、それらを実施する上での問題点や今後の可能性、支援のあり方などについて、国内外の事例を基に議論した。登壇者を含めた参加者から、今後もこのような機会を設けることでネットワークを広げていきたいとの要望が出た。次回のサイエンスアゴラを視野に、今後の展開を検討していきたい。

日本学術会議提言「学術からの提言—今、復興の力強い歩みを—」シンポジウム (Ab-303)

柴田徳思さん (株式会社千代田テクノ大洗研究所)

日本学術会議では福島原発事故からの復興に向けて、学術の立場から提言を公表した。この提言に関し、異なる分野の方々および当日の参加者からの反応を通じ、今後の復興支援への手がかりとすることを目的とした。学術会議会長からの内容説明と福島大学つくしまふくしま支援センター長の話題提供の後、福島県副知事、中小企業団体中央会政策推進部長、毎日新聞科学環境部記者が加わり、パネル討論を行った。課題として挙げられたのは、雇用への不安、放射線の不安、早期の除染と放射性廃棄物の処分、県民の健康調査などであった。会場への参加者の少ないことが問題と感じたが、熱のこもった議論となった。

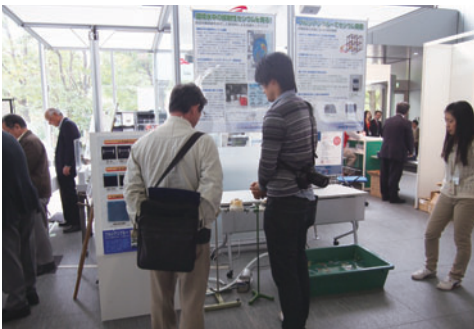


都産技研体験見学ツアー

～ものづくりの世界に触れてみよう～ ほか

五十嵐美穂子さん (地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター)

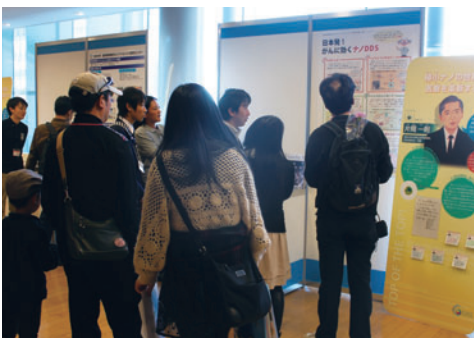
東京都立産業技術研究センター(都産技研)では、「都産技研ものづくり体験見学ツアー」や、ものづくりの体験が出来る、「熱転写プリントで作る巾着袋」「ペットボトルで作る掃除機」などを出展しました。ものづくり体験では、狭いスペースにも関わらずたくさんの方に来場いただき、事前に準備した材料が切れるほど、好評でした。また、教育機関等の出展者に会場提供を行い、ポスター発表など300名近くの学生や教員の交流がありました。これからの未来を担う児童生徒が科学の魅力を感じ、また楽しんでいただけたと思います。



使える科学を感じよう！～産総研ミニキャラバン～

前田康司さん (独立行政法人産業技術総合研究所臨海副都心センター
臨海副都心産学官連携センター)

産業技術総合研究所は、各種のロボットの実演、ノボレオン、3Dシアター、はんこ名人、工作教室、研究者講演会、ICカードスタンプラリーなど数多くの展示により、会期中に約1500人にご来場いただきました。特に「ブルシアンブルーを使ったセシウム吸着技術」では、模擬実験で放射性セシウムの除染を説明し、世に役立つ技術を実感していただきました。今回の展示を通して、研究成果の紹介と科学への興味を持っていただけたことは大変有り難く感じております。次回展示も、サイエンスアゴラとより緊密に連携していく予定です。



FIRST サイエンスフォーラム3

～未来のトップ科学者は君だ！～

JST 科学コミュニケーションセンター

東京国際交流館プラザ平成 (E会場)において、トップクラスの科学者と若者が語り合う「FIRST サイエンスフォーラム3」およびFIRSTプログラム18実施機関によるブース展示を実施しました。ブース展示では、FIRSTプログラムの研究者や職員等がさまざまに工夫した展示物やポスターを持ち寄り、今まさに進みつつある研究プロジェクトを体感できる展示となりました。今後もアゴラやほかのイベント等とも連携しつつ、今回のような最先端の研究プロジェクトを一般の方に向けて説明する場を設けていきたいと思っております。

サイエンスアゴラ賞について

サイエンスアゴラ賞

サイエンスアゴラでは、企画内容の向上や科学コミュニケーション理念の促進を図ることを目的とした「サイエンスアゴラ賞」を設けています。本年度は来場者による投票のほか、出展者がそれぞれの活動について相互に投票する新たな試みを行いました。

開催後、出展者による投票結果をもとに、審査委員会にて、科学的妥当性、価値観・視点の多様性、手法・表現の適切性、完成度などの観点から評価し、サイエンスアゴラ賞には12件、審査委員特別賞には3件を決定し、来場者投票の得票数1位の企画を、来場者特別賞に決定しました。

産総研賞、フジテレビ賞

本年度のサイエンスアゴラでは、共催・協力機関より、産総研賞・フジテレビ賞が創設されました。それぞれの機関が選考を行い、各1件の受賞企画を決定しました。

来場者投票の中間結果を公表

1日目終了後に来場者人気投票を中間集計しました。結果をサイエンスアゴラ公式ウェブサイトおよびTwitterにおいて公表するとともに、2日目にウェルカムゾーン（受付付近）に掲示し、開催中のムードを盛り上げる活動となりました。

サイエンスアゴラ賞 受賞企画



…サイエンスアゴラ賞



…審査委員特別賞



…来場者特別賞



世界を支える光合成 (Aa-010) ～植物の子カラを感じてみよう～

成川礼さん（日本光合成学会 若手の会）

私達は光合成研究に携わる若手研究者です。光合成は再生可能エネルギーとして社会からも関心が高く、一般の人達と交流することは重要と考え、昨年からは出展しています。昨年の反省をふまえ、直感的で分かりやすい内容を考え、参加者との相互交流を目指しました。見通しの良い区画をいただき、予想以上に多くの参加者に恵まれました。デモ実験では、子供が純粋に実験を楽しむ一方、その親御さんが「私の方が面白い」と解説に聞き入ることが多く、印象的でした。アンケートでは熱い声援もいただき、更なる研究とアウトリーチを続けるモチベーションが得られました。



タバコってな～に？—タバコを科学する— (Aa-011)

望月友美子さん（独立行政法人国立がん研究センター
がん対策情報センターたばこ政策研究部）

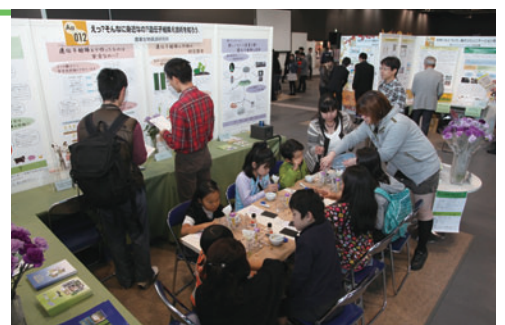
“子どもたちは未来の主人公”—社会の様々な人との関わりや繋がりの中で学び、主体的に選択し、自らの人生と豊かな社会を築いていく力をもってほしい。町長さんからの小学三年生への問いかけ「水と空気のきれいな開成町をもっと住みやすいまちにするためにはどうしたらよいか」に対して、総合学習の時間で、社会調査、観察実験、分析討議、相互発表、教材制作、社会への提言と段階的に学習を深めた過程を、サイエンスアゴラ場で共有しました。科学的なアプローチでタバコの害を理解した子どもたちは、自分も吸わないし家族にも吸ってほしくない、いつまでも自然がいっぱいの美しいまちでいてほしい、と願っていました。



えっ？そんなに身近なの？ 遺伝子組換え技術を知ろう。 (Aa-012)

笹川由紀さん（独立行政法人農業生物資源研究所 広報室）

今回の出展に際し、来場者の方々がブースに足を止めて、遺伝子組換え農作物や食品のことをもっと知って、私たちと気軽に話をしてもらいたい、というのが私たちの願いでした。そのために目を惹く展示物、親しみやすいポスター作り、ポスターを読むと答えられるクイズ設定などの工夫をしました。当日は多くの来場者の方々とお話できましたし、ポスター内容についても「初めて知ったことがたくさんありました」「ポスターの別刷りが欲しい」などの声をいただき、今後の活動の励みになりました。





群馬のこんにやく飛粉からバイオエタノールの生産 (Aa-017)

広井勉さん (樹徳高等学校 教諭)

樹徳高等学校 (群馬県桐生市) 理科部では、群馬の名産「こんにやく」を製造する際に副産物として生じる「こんにやく飛粉 (とびこ)」からバイオエタノールを生産する研究を行っています。日頃からプレゼンテーションの機会を大切にしており、さまざまな発表会に積極的に参加しています。今回は周囲を見渡すと研究所や大学ばかりで、はじめは気後れをしていました。しかし、大人にまじって発表できたことで少し自信がついた気がします。また、専門家ははじめ多くの方から助言をいただき、視野を広げることもできました。



黒ラブ教授のお笑い理系ライブ、(´▽`)/ 体験版 (Aa-019)

黒ラブ教授さん (吉本興業)

サイエンスアゴラ賞、フジテレビ賞、ありがとうございます！、(´▽`)/

普段は、理系が苦手、興味ないお客様が多い、お笑いの劇場で本格的な理系ネタをやっています、お客様に笑っていただいています。去年のアゴラでは、22回ライブツアーをやり、声が枯れてしまいました (笑)。今年は、これ以上の物を披露できるようにコンセプトから考え直して挑みました。前年より確実にお客様がライブに集まってくる速度が速く、お客様も多く、嬉しかったです！お客様、そしてスタッフの皆様、事務局の皆様、ありがとうございました！



世界に一つの岩石標本製作 —ジオパークを楽しもう！ (Aa-050)

大野希一さん (島原半島ジオパーク事務局)

この企画では、一般の人にもっとジオパークに親しみ、楽しんでほしい、という思いから、普段のジオツアーにおいて、屋外で実施している解説をそのまま室内で再現し、参加者がジオパークに訪れ、その場所で本当に岩石を採取したかのような疑似体験をしていただきました。参加者の大半は小学生や親子連れで、中には自宅 (横浜) からわざわざ持参した自作の岩石標本を見せてくれた「石大好き女の子」もいました。「パフォーマンスが面白い！」というウワサが会場で広がったらしく、他のブースからも多くの方が参加して下さいました。



かがく縁日パートV (Aa-069)

澤本早苗さん (科学読物研究会)

この度は、栄えあるサイエンスアゴラ賞をいただきありがとうございました。初回から参加させていただき、かがく縁日として今年で5回目。毎年のアゴラ参加は、11月の恒例行事になりつつあります。今年のアゴラでは、来場者された皆さんとの会話のキャッチボールも弾み、楽しそうに作業する私たちの様子を見て、当研究会に興味を持たれた方もたくさんいらっしゃいました。これからも科学読物研究会らしく、心に残るような楽しい体験をみなさんと一緒にしていきたいと思えます。



原子核の地図「核図表」を作ろう (Aa-201)

宮内成真さん (独立行政法人理化学研究所仁科加速器研究センター)

原子核という難しい研究をどのように見せるのか非常に悩みました。原子核で必ず使う表が「核図表」です。大きく難解な図なので、これを使わない展示も考えましたが、あえて前面に押し出しました。逆に核図表が理解の突破口になると期待したからです。レゴで作った高さの要素を足した核図表は、原子核のエネルギーや性質が分かるようになっていて年齢を問わず好評でした。アイロンビーズで作る核図表では、直に触れ、対面することで親しみを持っていただきました。お土産には核図表のポスターを製作し、お家でも触れてもらえるようにしました。





チリメンモンスターを探せ！！ (Aa-244)

上園智美さん (半魚人倶楽部)

半魚人倶楽部は、環境事業に携わる2つの企業の有志が活動する団体です。これまでは科学館や小学校などからご依頼をいただき、チリメンモンスターイベントを行ってきましたが、今回初めてサイエンスアゴラへ出展しました。私たちがイベントを行う際に最も力を入れているのは、「参加者に楽しんでもらう」ことです。笑顔で声をかける、専門的なことをわかりやすく面白く伝える、宝物にしたいくなるようなカードを作るなど、様々な工夫を凝らしながら親子で楽しめるイベントを作っています。今回は、2日間で170名を越える方(リピーターも!)が、チリモンを楽しんでくれました。



科学の『押し売り』？ (Ab-357) ～無関心層になぜ・どうやって科学を伝えるのか～

加納圭さん、水町衣里さん (科学コミュニケーション研究会)

私たちは、科学コミュニケーションにおいて「無関心層」にどうアプローチしたらいいの？そもそも、なぜ伝えるの？ということを中心にしました。90分間とことん話し合えるように、イスの配置や進行スタイルを工夫しました。結果、約50名の方々と濃い時間を過ごすことができました。「忙しい、きっとそこまで科学にリソースを割けないよね」、「知らなくても生きていける事に関しては面白さを『押し付け』てもいいかもしれないが、生きていく上で重要な情報は『押しつけ』ではダメ」など、本当にいろいろな意見を共有することができました。



SSH 高校生ディベート「遺伝子組換え食品は安全か」 (Ab-369)

土田敏行さん (岐阜県立岐阜農林高等学校 生物工学科 主任)

SSH つくば研修で遺伝子組換え作物を見学し、GM作物の安全性についてディベートを行いたいと考えアゴラに参加しました。誰もが意見を言えるようにパネラーはアゴラの1週間前まで決定しませんでした。前日宿泊したホテルで夜遅くまで作戦会議をして、パネラーがお互いの意見を言い議論を高めることができました。当日は音響から記録など討論会の運営も、司会もパネラーも生徒が担当しました。会場の参加者からの意見にも生徒は全力で自分の考えを話していました。高校の学習を、討論を通してより深く理解することができ、とても貴重な体験をしました。



福島での活動経験から習うリスクコミュニケーション (Bb-603)

渡邊正己さん (日本放射線影響学会、京都大学教授)

福島原発事故後、一年半を越えるリスクコミュニケーションの経験をもとに、科学者、ジャーナリスト、一般人のパネリストによって、緊急時におけるリスクコミュニケーションの諸問題を洗い出すためのパネル討論会をおこなった。議論は尽きず、最終的な結論を出すに至らず、継続して検討を続けることとした。議論の内容から主催者が感じた感想は、リスク情報は「流す側の知識と価値観」と「受ける側の知識と価値観」が大きく異なると正しく伝わらないということであった。流す側の国は、硬直化した価値観にがんじがらめになって為すべきことがわからず、科学者は自然に対する畏敬の念を忘れ、マスコミはジャーナリズムとしての志を失っているようである。受ける側(国民)は、多彩な価値観を持ちながら十分な知識を持たず、そのうえ、専門性への尊敬を忘れていっているようである。この苦難を乗り越えるために、国民は、多彩な専門性が存在することの大切さを知り、専門性を尊重する気持ちを取り戻さねばならないと感じた。



審査委員特別賞 季刊理科の探検：『都会で暮らす野生動物たち』 (Ab-313・314・364)

里中遊歩さん (日本野生生物リサーチセンター代表)

国内に棲息する動物たちについて「名前は知っていてもその生態は何も知らない」人が大変多いのが実情です。そこで、特に人間の近くに棲息する動物たちを取り上げ、その面白可笑しい特徴や行動についてを伝え、彼らがより身近で興味深いものだと思わせてもらいたく、今回は誌面を飛び出してトークイベントをさせて頂きました。短い時間内でどれだけ伝えられたのかはわかりませんが、終了後にご自身の動物との遭遇体験をお話し下さるお客様も少なくなく、この先より一層の興味を持ってもらう小さな「きっかけ」にはなれたかなと思っています。





審査委員特別賞

千葉市内3館園連携企画「ちばジカプロジェクト」

(Aa-237)

針谷亜希子さん（千葉市科学館 教育普及特任チーム）

このプロジェクトが成功した要因は、第一に各施設が地理的に近く、それぞれに意欲的なスタッフがおり、その現場の力で実施できたこと。第二に、一連の試みと千葉市科学館が採択を受けているJST「ネットワーク形成 先進的科学館連携型」の趣旨が合致しており、資金面のクリアが容易だったことが挙げられます。この異色の博物館連携による様々な試みは、「ネットワーク形成（連携）」と「教育と学び」という二つの面から評価でき、特に市と県という垣根を越え、異なる行政区分の施設をまたいでのプログラムを作れた点が特徴です。今後はさらに各方面でのつながりを活かしたクラブ運営を考えています。



審査委員特別賞

「みんなのぎもん」 (Aa-245)

森裕美子さん（理科ハウス・世界一小さい科学館）

「みんなのぎもん」は科学の質問を持っている人と、それに回答できる人をつなぐ掲示板です。サイエンスアゴラは研究者が集結するお祭り。理科ハウス内でも設置していますが、こんなチャンスは逃す手はありません。当日は「宇宙の裏側はなあに?」「人間のつぎはあるの?」などの難問がいっぱい集まりました。研究者の方々も負けずに次々と回答を書いてくれました。また、図々しく出展ブースにも足を運び回答をお願いしました。終了後、質問者に回答をメールで送ったところ、「答（応）えてくれる人がいるってことが嬉しいですね」「親子で宇宙の話をするきっかけになりました」などのお返事をいただきました。「みんなのぎもん」がたくさんの質問者と研究者とをつなげてくれたのです。



来場者特別賞

その小枝で理科遊びだ！ (Aa-062)

～ギシギシプロペラを作ろう～

雨谷俊彦さん（一般社団法人 蔵前工業会 蔵前理科教室ふしぎ不思議）

来場者特別賞をいただきブースにいらした方々の満足度を実感しました。我々は東京工業大学の卒業生で組織するグループで、アゴラには昨年初めて参加し、アゴラ賞をいただき来場者人気投票では5位でした。今年も身近な材料を用いた工作実験を来場者と1:1で行い、若干の科学的説明をする方式で行いました。テーマは小枝に溝を付け、先端のプロペラを回すギシギシプロペラでした。410名が工作実験を楽しみ外国人もいました。なお審査委員や展示の責任者の評価と来場者の評価、両者の一致こそアゴラ発展に不可欠と思いました。



来場者人気投票結果

第1位	56票	その小枝で理科遊びだ！ ～ギシギシプロペラを作ろう	Aa-062
第2位	35票	熱転写プリントで巾着袋を作ろう！	Aa-041
	35票	水兵リーベ！ えれめんトランプで対決だ！	Aa-056
第4位	33票	原子核の地図「核図表」を作ろう！	Aa-201
第5位	29票	黒ラブ教授のお笑い理系ライブ、 ヽ(´▽`)/体験版	Aa-019
	29票	あなたを支える身近でエコな電気 一創る・動かす・蓄える一	Ba-401 Da-904
第7位	21票	親子で本気の理科実験	Aa-044
	21票	がん予防の実験を見てみよう	Aa-209
第9位	20票	科学の心 日本的心	Aa-225
	20票	リングキャッチャーに挑戦	Ca-706

有効票数 1,151票



産総研賞（1件）

いつでも・どこでも・だれでも天体観測 (Aa-006)

慶應義塾大学インターネット望遠鏡プロジェクト

選考理由

インターネット望遠鏡を通じていつでも・どこでも・だれでもが世界の空の天体観測ができる環境を整備し、ごく自然に科学に触れ合う場を提供していた。このような取り組みは、将来、科学者になるような人材の育成に大きく資するであろうことが期待できる。



フジテレビ賞（1件）

黒ラブ教授のお笑い理系ライブ、ヽ(´▽`)/体験版 (Aa-019)

黒ラブ教授

選考理由

各出展がどれも工夫を凝らし、来場者の興味を喚起させながらプレゼンしていて、文系の人にも大変楽しめる内容でした。中でも「黒ラブ教授」は3分程の短いネタに科学の楽しさが凝縮されており、大人から子どもまで彼のトークに魅了されていました。「楽しくなければテレビじゃない」のフジテレビが選ぶに相応しい展示だと思えました。今後の更なるご活躍に期待します。

会場案内

FLOOR MAP

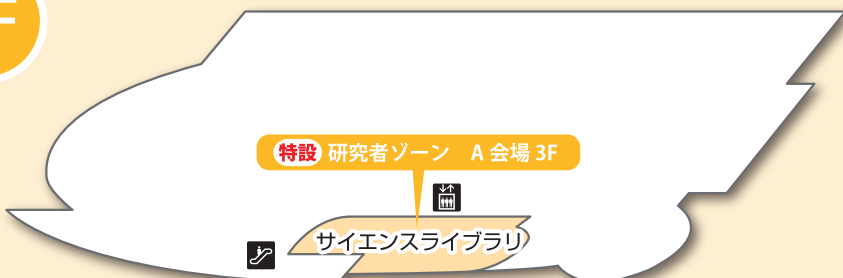
A会場 日本科学未来館



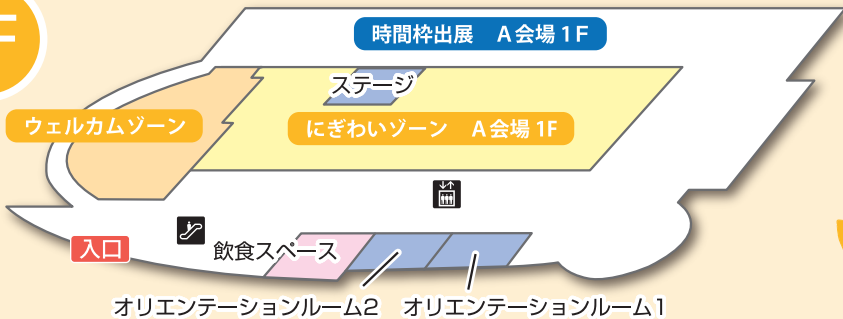
7F



3F

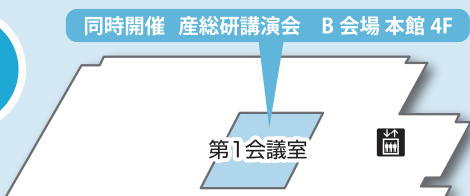


1F



B会場 産業技術総合研究所臨海副都心センター 本館・別館

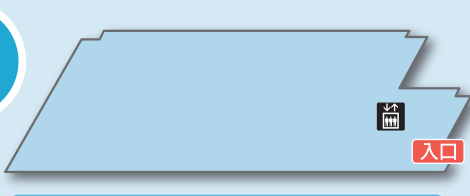
本館 4F



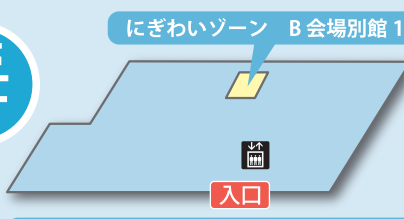
別館 11F



本館 1F



別館 1F



本館 別館



C会場 東京都立産業技術 研究センター



5F

特設 生徒発表・教員交流ゾーン C会場 5F

時間枠出展 C会場 5F

講堂

M2F

特設 生徒発表・教員交流ゾーン C会場 M2F

イノベーションハブ

1F

にぎわいゾーン C会場 1F

エントランスホール

入口



D会場 シンボルプロムナード公園



E会場 東京国際交流館

プラザ平成 1F・3F

●同時開催：FIRSTサイエンスフォーラム3



終日楽しめる出展

ALL DAY EXHIBITION

A会場 日本科学未来館



1F ウェルカムゾーン

- 001** 企画展「世界の終わりのものがたり」エビローク
日本科学未来館
- 002** サイエンスアゴラ 2012 ポスターデザイン
筑波大学芸術系 田中佐代子研究室

1F にぎわいゾーン

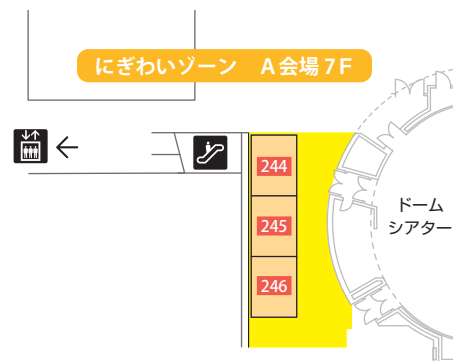
- 003** 産業活動と外来生物 ~日本固有の自然を考える~
一般社団法人 生物多様性保全協会
- 004** 安心・安全を守る科学技術
公益社団法人 日本技術士会 科学技術振興支援実行委員会
- 005** メロディーの小箱！電子工作と光ファイバによる光通信体験
日立技術士会
- 006** いつでも・どこでも・だれでも天体観測
慶應義塾大学インターネット望遠鏡プロジェクト (慶應義塾大学自然科学研究教育センター)
- 007** 脳でマシンが動く！？脳科学がつなく人とマシンの世界
文部科学省 脳科学研究戦略推進プログラム
- 008** ジャンプロボットを作ろう
筑波大学大学院 システム情報工学研究科 知能機能システム専攻 柔軟ロボット学研究室
- 009** 放射線って、どのようにして測っているの？
早稲田大学放射線教育研究グループ
- 010** 世界を支える光合成 ~植物のチカラを感じてみよう~
日本光合成学会 若手の会
- 011** タバコってな〜に？ ~タバコを科学する~
独立行政法人国立がん研究センター がん対策情報センター-たばこ政策研究部
- 012** えっ？そんなに身近なの？
遺伝子組換え技術を知ろう。
農業生物資源研究所
- 013** 技術者が担うソーシャルビジネス
一般社団法人ソーシャルテクニカ
- 014** 体験！化学実験 活動紹介
首都大学東京 TMU-SFC
- 015** モバイル3Dシステムによる宇宙旅行 Mitaka を体験しよう！
金沢工業大学サイエンスコミュニケーションプロジェクト
- 016** 学生集団ちもんず 科学ライブショーの運営・実演など
学生集団ちもんず
- 017** 群馬のこんにやく飛粉からバイオエタノールの生産
樹徳高等学校理科部
- 018** 科学にもとづいた、食のコミュニケーションを！
食のコミュニケーション円卓会議
- 019** 黒ラブ教授のお笑い理系ライブ、(´▽`) / 体験版
黒ラブ教授 (吉本興業)
- 020** 「霧箱」で放射線 (の飛跡) を見る、実感する
佐藤 真一郎
- 021** 地球のカケラ DOPAS で恐竜を描こう！
国土防災技術株式会社
- 022** 「目には見えない」ものばかり!!
ふしぎな雑貨店、ただいまオープン！
名古屋大学 ミュージアム活性化プロジェクト NUMAP
- 023** あいちサイエンスフェスティバル 2012
名古屋大学 産学官連携推進本部
あいちサイエンスフェスティバル事務局
- 026** 聴いてみよう！身の回りのサイン・コサイン
Casa Blu
- 027** みかんに学ぶ身近な科学
お茶の水女子大学付属中学校科学部
- 028** チームわだ重の軌跡 (奇跡?)
チームわだ重
- 029** 科学・工作好き集まれ！
愛工大科学ものづくり教室
愛知工業大学 中野研究室
- 030** [リベラルアーツカフェ~静岡の教養~]の
実践報告 4
宮田舞 (東京大学大学院) 藤井元真 (静岡大学) **キャンセル**
- 031** Tomorrow's Table
京都府立大学 生命環境科学研究科
Tomorrow's Table 翻訳グループ
- 032** 「まるのうち宇宙塾」調査報告一現場の見つめ方
宮田舞 (東京大学学際情報学府)
高梨直毓 (東京大学 EMP) **キャンセル**
- 033** 北極があつい！
~北極研究の今~
北極環境研究コンソーシアム
- 034** Art for Science
Ode

...子ども向け
 ...教育関係者向け
 ...科学コミュニケーター向け
 ...ポスター
 ...展示・実演
 ...実験・工作
 ...対話型ワークショップ
 ...ショー・講演
 ...実費あり

...サイエンスアゴラ賞
 ...産総研賞
 ...審査委員特別賞
 ...フジテレビ賞
 ...来場者特別賞

- | | | |
|--|--|---|
| <p>035 博士がサイエンスコミュニケーターとして大活躍!
名古屋大学 社会貢献人材育成本部
ビジネス人材育成センター </p> <p>036 高専発 学生と発信する天文学
八戸工業高等専門学校 </p> <p>037 小規模な放射能勉強会の試み
菊池誠 </p> <p>038 猫が語る科学～科学の伝え方の工夫～
佐野和美 </p> <p>039 『現場の声』を活かした教材・教具の開発・工夫
～杉並区立科学館の学校教育支援～
杉並区立科学館 </p> <p>040 横串フィールド
サイエンスコミュニケーションネットワーク横串会 </p> <p>041 熱転写プリントで巾着袋を作ろう!
地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター </p> <p>042 親子で参加「おもしろいまちづくりエコゲーム」
NPO 法人 女性技術士の会 </p> <p>043 体験! エコな暮らし
INWES-Japan(国際女性技術者科学者ネットワーク) </p> <p>044 親子で本気の理科実験
理科教育研究フォーラム </p> <p>045 サイエンスの力で開発途上国を救え
独立行政法人 科学技術振興機構
地球規模課題国際協力室 </p> <p>046 ぼくらの科学文化3 家族で楽しむ科学文化
みたか科学文化の会有志 </p> <p>047 季刊理科の探検: RikaTan 面白実験工作
左巻健男と『季刊 理科の探検: RikaTan』誌委員 </p> <p>048 富士山頂実験室
一般社団法人日本気象予報士会気象実験クラブ </p> <p>049 茨城県北における地質情報や地域振興について
茨城大学地質情報活用プロジェクト </p> <p>050 世界に一つの岩石標本製作—ジオパークを楽しもう!
島原半島ジオパーク推進連絡協議会および
雲仙岳災害記念館 </p> <p>051 おもしろ電気加工
三菱電機株式会社 </p> <p>052 じょうぶな橋を作ろう
三菱電機株式会社 </p> <p>053 進化する天然物質!? 医薬品から最強の毒素まで
「生合成マシナリー」総括班
(文部科学省新学術領域研究) </p> <p>054 神話の国シマネからの LED 工作
松江工業高等専門学校 </p> <p>055 2012サイエンスパークの紹介
北海道総合政策部科学 IT 振興局科学技術振興課 </p> | <p>056 水兵リーベ! えれめんトランプで対決だ!
元素周期表同好会 </p> <p>057 ケミストリークエスト体験会
ケミストリー・クエスト株式会社 </p> <p>058 あざやかなカガクの世界
日本コンピュータ化学会 </p> <p>059 世界の水資源問題の解決の一手法
NPO 法人 楽市楽園 </p> <p>060 サイエンスとアートなおつきあい
NPO 法人 科学芸術学際研究所 (ISTA) </p> <p>062 その小枝で理科遊びだ!
～ギシギシプロペラを作ろう
一般社団法人 蔵前工業会 蔵前理科教室ふしぎ不思議 </p> <p>063 北海道教育大学理科プロジェクトの紹介と演示実験
北海道教育大学「21世紀型実践的指導力を有した理科
教員の養成・支援プログラムの開発」プロジェクト </p> <p>064 さわれる・不思議ミニミュージアム
ミニ・エクスプロ
ミニ・エクスプロアトリウムを創る会 </p> <p>065 たのしい万華鏡をつくらうよ!
わくわく科学クラブ </p> <p>066 大学生サークルによるサイエンスミュージアム
東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST </p> <p>067 科学のハナシ・こうして届けてます (展示編)
科学技術広報研究会 </p> <p>068 気象予報士とお天気実験!
一般社団法人 日本気象予報士会 サニーエンジェルズ </p> <p>069 かがく縁日パートV
科学読物研究会 </p> <p>070 理科読をはじめよう
理科読をはじめよう実行委員会 </p> <p>071 暮らしの中で「ほんど?」や「ほんど!」を
見つけよう
科学の本の読み聞かせの会「ほんどほんど」 </p> <p>072 文学に読む理科実験
埼玉県立浦和高等学校 SciencePartnershipProject </p> <p>073 矢印画廊
佐藤 実 </p> <p>074 東北大学 サイエンス・エンジェル
東北大学女性研究者育成支援推進室「社の都女性研究者
ハードリング支援事業」サイエンス・エンジェル </p> <p>075 出来ました、ダ・ヴィンチの次のベアリング
株式会社空スベース </p> <p>076 農とかがくのおつきあい
農かがく </p> <p>077 トリックアートを作って錯覚体験!
茨城大学 工学部 メディア通信工学科 矢内浩文研究室 </p> | <p>078 MICRO MUSEUM(マイクロミュージアム)
「小さい」=可能性拡大!
株式会社マイクロミュージアムラボトリー </p> <p>079 先端技術とふれ合おう! 『先端技術館@TEPIA』
一般財団法人 高度技術社会推進協会 </p> <p>080 ラテックスを使ったカラススーパーボールの作製
岩手大学技術部工学系技術室 </p> <p>081 コンパクトディスクを使った分光器の作製と
光の観察
岩手大学技術部工学系技術室 </p> <p>082 秘密のメッセージを隠したアロマキャンドルを
作ろう!
柏の葉サイエンスエデュケーションラボ </p> <p>083 科学でマジックとアートだよ!
大阪青山大学 「何でもどこでも科学」プロジェクト </p> <p>084 からくり科学マシーン～実験&日食体験～
東海大学 supporting science experiment </p> <p>085 ソーラーミニ行灯を作ろう
豊田工業高等専門学校 </p> <p>086 空気とゴムの技
東京電機大学理工学部理学系物理学コース </p> <p>087 MOBILESEM で身近なマイクロを体験しよう!
新日本電工株式会社 </p> <p>088 ブロック・からくり・けんきゅうじょ
インガワスタジオ株式会社 </p> <p>089 むし食がわかる、世界がわかる
～あなたとむし食のおつきあい
食用昆虫科学研究会 (e-ism) </p> |
|--|--|---|

7F にぎわいゾーン



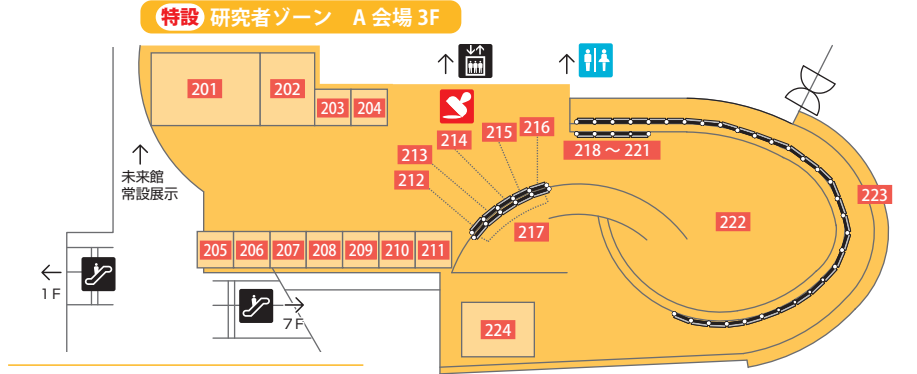
- 244** チリメンモンスターを探せ!!
半魚人倶楽部
- 245** 「みんなのぎもん」
理科ハウス・世界一小さい科学館
- 246** まなびのえほんづくり
いきものえほんをつくらう!
任意団体 まなび

終日楽しめる出展

ALL DAY EXHIBITION

3F 特設 研究者ゾーン

- 201 **原子核の地図「核図表」を作ろう!**
独立行政法人 理化学研究所
仁科加速器研究センター
- 202 **メイちゃんと話そう! みんなでつくる音声対話システム**
JST CREST uDialogue プロジェクト
(名古屋工業大学・エジンバラ大学)
- 203 **科学研究を伝える広報誌制作手法の追究**
「科学研究を伝える広報誌制作手法の追究」
研究チーム
- 204 **生物学教育に生かす日本語バイオポータルサイト -Jabion-**
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所
- 205 **社会ニーズにこたえ、明日をつくる材料研究**
独立行政法人 物質・材料研究機構
- 206 **「ゆれゆれ」×「ゆらゆら」
～手のひらサイズの地震科学～**
独立行政法人 防災科学技術研究所
- 207 **海洋研究開発機構 (JAMSTEC)
の最新研究トピックス**
独立行政法人 海洋研究開発機構
- 208 **大学における医用画像・イメージング教育**
東北大学 サイクロトロン・ラジオアイソトープ
センター
- 209 **がん予防の実験を見てみよう**
独立行政法人 国立がん研究センター研究所・がん予防
研究分野
- 210 **たんぱく質のかたちを調べると何がわかるの?**
Protein Data Bank Japan
(日本蛋白質構造データバンク)
- 211 **心と身体の健康を支える体内時計**
山口大学時間学研究所 明石研究室
(時間生物学研究室)

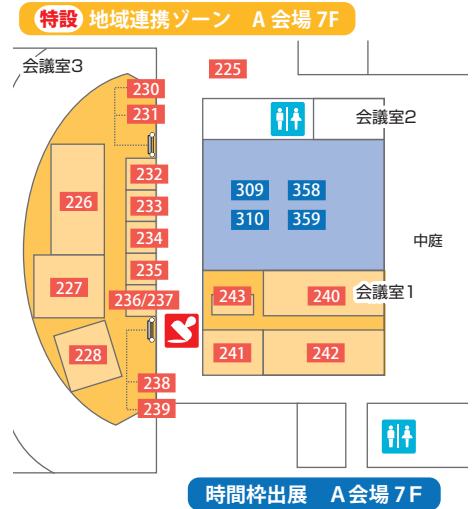


- 212 **市民と考える協働型のサイエンス
コミュニケーション**
北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科
- 213 **科学の伝言ゲーム～新聞・広報・原著論文の
読み比べ**
東京大学大学院情報学環教育部自治会サイエンスゼミ
- 214 **学生が行うサイエンスコミュニケーション
四季報**
四季報事務局
- 215 **学生による科学の種の蒔き方**
筑波大学サイエンスコミュニケーショングループ SCOUT
- 216 **科博 SCA 設立と活動の報告**
国立科学博物館サイエンスコミュニケーター・
アソシエーション
- 217 **みんなのサイエンス学会 ポスター発表大会**
任意団体 まなび
- 218 **京都大学リサーチ・アドミニストレーターの
活動**
京都大学 学術研究支援室 (URA)
- 219 **プロジェクトマネジメント推進室の広報活動**
徳島大学 プロジェクトマネジメント推進室
- 220 **合成生物学とのおつきあい**
iGEM 首都大学東京チーム
- 221 **科学アイデアコンテスト紹介**
久田旭彦 (徳島大学 大学院ソシオ・アーツ・アンド・
サイエンス研究部)
- 222 **研究者リレープレゼンテーション**
研究者有志チーム
- 223 **サイエンスアートの世界**
SciArt ワークショップ 参加者有志
- 224 **音響槽：音を聴いて空間の記憶を探る旅に出かけよう**
JST-CREST「共生社会に向けた人間調和型情報
技術の構築」領域 聴空間共有プロジェクト

7F 特設 地域連携ゾーン

- 225 **科学の心日本の心**
裏千家インターナショナルアソシエーション
- 226 **最先端工学の世界をのぞいてみよう!**
東京大学生産技術研究所
- 227 **ペットボトル・トラス競技 (ペットラ)**
早稲田摂陵中学校・高等学校
水虫先生と仲間たち (生物研究部)
- 228 **『島津科学館で五感を磨こう!』**
島津グループ (島津理化/島津製作所)
- 230 **佐久市子ども未来館で科学者に会おう!**
佐久市子ども未来館
- 231 **中高校生の研究発表会を通した研究者と
生徒のつながり**
千葉市科学館 教育普及特任チーム
- 232 **高校向け理科実験キットの紹介**
和光純薬工業株式会社
- 233 **サイエンス&次世代エネルギー満喫**
財団法人 茨城県科学技術振興財団
つくばサイエンスツアーオフィス

- 234 **「やじろべえモータ」と「ふわとハート」**
早稲田摂陵中学校・高等学校
水虫先生と仲間たち (生物研究部)
- 235 **はこだて国際科学祭の紹介**
サイエンス・サポート函館
- 236 **あなたのDNA、ゼブラフィッシュのDNA、
同じかな?**
なんてん (高校生物教諭 井上 陽子)
- 237 **千葉市内3館連携企画
「ちばジカプロジェクト」**
千葉市科学館、千葉県立中央博物館、千葉市動物公園
- 238 **地域の科学をつなぐ・輪を育てる**
静岡科学館る・くる
(指定管理：公益財団法人静岡市文化振興財団)
- 239 **地域連携によるサイエンスリテラシー向上の
試み**
財団法人上田市地域振興事業団 「上田創造館」
- 240 **電子顕微鏡を介したSC活動と地域への還元**
千葉市科学館
- 241 **ヒトの不思議を勉強しよう!**
高校生物における人類学の展開
日本人類学会教育普及委員会、東京都生物教育研究会



- 242 **人体にときめけ! ドキドキハートランド**
川崎学園 川崎医科大学 現代医学教育博物館
- 243 **科学館連携「アゴラを取材して地域で使える
企画を考えよう」**
科学館有志チーム

B会場 産業技術総合研究所臨海副都心センター

別館 1F にぎわいゾーン

- 401 あなたを支える身近でエコな電気
一創る・動かす・蓄えるー
電気理科クラブ

同時
開催

本館・別館 1F
使える科学を感じよう！
独立行政法人産業技術総合研究所

本館 4F 第一会議室
産総研講演会
独立行政法人産業技術総合研究所

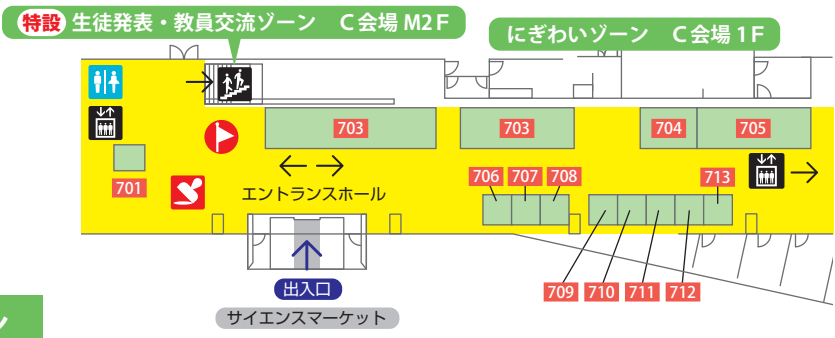
C会場 東京都立産業技術研究センター

1F にぎわいゾーン

- 701 都産技研体験見学ツアー
～ものづくりの世界に触れてみよう～
地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
- 703 レゴブロックによる宇宙エレベーターデザイン
& 実験教室
日本大学理工学部、宇宙エレベーター協会
- 704 はやのん理系漫画制作室活動報告
はやのん理系漫画制作室
- 705 図形と空間の不思議（敷き詰め模様で遊ぼう！）
日本テセレーションデザイン協会
- 706 リングキャッチャーに挑戦
科学講座研究会
- 707 綺麗で不思議な変わりゴマの楽しみ方
海後 竜生（NPO法人なかなかワーク）

- 708 星空の知識を試そう
一般社団法人 星空宇宙天文検定協会
- 709 身のまわりの元素・物質
マイクロフォトスタジオ ねこのてぶくろ亭
- 710 地球のパレット
つゆねこ企画

- 711 漫画・ゲームで疑似体験！
研究業界漫喫だ！
博士 @Ph.D. と愉快な仲間達
- 712 「感じる」ことからはじめようー「センス・オブ・
センシング」活動紹介
ユニットセンス・オブ・センシング
- 713 算数・数学とつながろう！
日本科学未来館 曽根剛、河井弘典



M2F 特設 生徒発表・教員交流ゾーン

- 714 アゴラ高校生ポスター発表会
教員有志チーム
- 715 高校総合学科における科学コミュニケーション
岡山県立岡山御津高等学校
- 716 SSH科学体験学習旅行の報告
東海大学付属高輪台高等学校

- 717 人はなぜ宇宙を目指すのか～太陽系の科学～
埼玉県立伊奈学園総合高等学校 IINA サイエンス
プロジェクト
- 718 科学コミュニケーション力を高めるための試み
岡山県立倉敷天城中学校
- 719 児童生徒の先進科学研究発表会
独立行政法人科学技術振興機構
理数学習支援センター

- 720 アゴラ教員交流会
教員有志チーム
- 721 高校生の研究者ゾーン訪問研修（学校）
教員有志チーム
- 722 生徒の研究者ゾーン訪問研修（理数）
独立行政法人科学技術振興機構
理数学習支援センター

5F 会議室

- 723 ペットボトルで掃除機をつくってみよう
地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター

- 724 ハイドロカルチャー（観葉植物）をつくろう
地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター

D会場 シンボルプロムナード公園

屋外 にぎわいゾーン

- 901 飛べ！マッチ棒ロケット
Science Edge（サイエンス・エッジ）

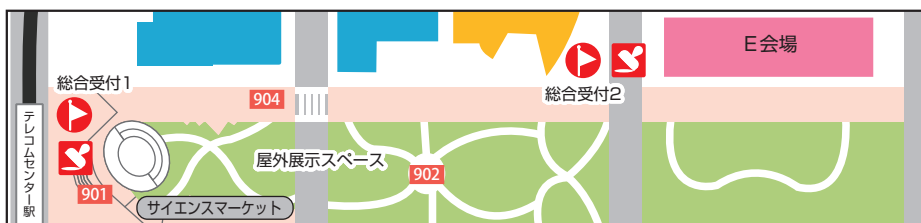
- 902 核融合エネルギーのひみつ 太陽もそうなんだ
独立行政法人 日本原子力研究開発機構
那珂核融合研究所

E会場 東京国際交流館

同時
開催

プラザ平成 1F・3F
FIRST サイエンスフォーラム 3
～未来のトップ科学者は君だ！～
13:00～15:30
独立行政法人 科学技術振興機構

FIRST プログラム実施機関による
ブース展示
独立行政法人 科学技術振興機構



にぎわいゾーン D会場（屋外）








11.10 (sat) タイムテーブル

TIME TABLE

A会場 日本科学未来館

10:00


10:30-12:00

1F	オリエンテーションルーム 1 (メイン入口側)				
	オリエンテーションルーム 1 (通用口側)			Ab-313 10:30-12:00 季刊理科の探検：『都会で暮らす野生動物たち』 左巻健男と『季刊 理科の探検：RikaTan』誌委員	
	オリエンテーションルーム 2 (メイン入口側)			Ab-316 11:00-12:00 海外からやってくる感染症をどう防ぐ？ 独立行政法人理化学研究所 横浜研究所 新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター	
	オリエンテーションルーム 2 (通用口側)			Ab-319 11:00-12:00 チーム美らサンゴ ～サンゴ再生プロジェクトに参加しよう！ チーム美らサンゴ	
	ステージ				
7F	みらいCANホール			Ab-301 10:30-12:00 サイエンスアゴラ 2012 開幕シンポジウム「伝える」から「つくる」科学コミュニケーションへ 独立行政法人 科学技術振興機構	  
	イノベーションホール			Ab-304 10:30-12:00 将来の科学人材育成から見た秋入学の是非 日本学術会議	
	交流サロン				
	会議室 2			Ab-309 10:15-11:45 ミッション・ポッシブル～宇宙探査編～ 日本科学未来館	

B会場 産業技術総合研究所 臨海副都心センター 別館

10:00




10:30-12:00

11F	多目的室				
	会議室 1				
	会議室 2				
	会議室 3				

C会場 東京都立 産業技術研究センター

10:00

10:30-12:00

5F	講堂			Cb-801 10:00-12:00 アゴラ生徒発表会 学校連携チーム	  
----	----	--	--	--	---

13:00-14:30

Ab-311 13:00-14:30
 生活習慣病予防の対面交渉ゲーム「ネゴシエート・キラー」を体験しよう
 NPO 法人市民科学研究室・科学コミュニケーションツール研究会

Ab-314 12:30-14:00
 季刊理科の探検：『都会で暮らす野生動物たち』
 左巻健男と『季刊 理科の探検：RikaTan』誌委員

Ab-317 13:00-14:30
 ホタルの点滅反応を振動反応の立場から考える
 桜美林大学リベラルアーツ学群

Ab-320 13:00-14:30
 「こども科学オリンピック」親子の絆で科学技術を育てる
 ニコニコ科学研究所

Ab-323 13:00-14:30
 第4回科学ドラマ大賞授賞式
 独立行政法人 科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター

Ab-302 13:00-14:30
 ポッドキャストで科学とつきあう
 ～あのワクワクした科学はどう実現されたのか～
 インターネットラジオ局くりらじ

Ab-305 13:00-14:30
 科学・技術でわかること、わからないこと Part II
 日本学術会議 科学と社会委員会科学力増進分科会

Ab-307 13:00-14:30
 地球惑星科学 cafe
 Universal Earth

15:30-17:00

Ab-315 15:00-17:00
 本音で語る『専門職学位』～薬学6年化は成功するか？～
 横山雅俊（市民科学研究室）、山本伸（サイコムキャリア）、日本薬学生連盟、#phdjp 科学と社会ワーキンググループ

Ab-318 15:30-17:00
 見て！聞いて！科学読物の本読み隊がやってきた！パートⅢ
 科学読物研究会

Ab-321 15:30-17:00
 映画で語るサイエンス
 粥川準二、斉藤勝司

Ab-324 15:30-17:00
 対話の場の可能性～世界市民会議 WWViews の取り組み～
 日本科学未来館

Ab-303 15:30-17:00
 日本学術会議提言
 「学術からの提言—今、復興の力強い歩みを—」シンポジウム
 日本学術会議

Ab-306 15:30-17:00
 ビックリするほどビックリ！ 日本の先端技術
 日本科学未来館

Ab-308 15:30-17:00
 茨城県北ジオパーク あなたの意見が聞きたい！
 サイエンスカフェ水戸

Ab-310 15:00-17:00
 ギャラクシーフォーラム 2012 ～ 21 世紀の宇宙科学教育～
 International Lunar Observatory Association

13:00-14:30

Bb-601 13:00-14:30
 プロから学ぶ、科学を伝える映像術ワークショップ
 科学技術広報研究会

Bb-603 12:30-14:30
 福島での活動経験から習うリスクコミュニケーション
 日本放射線影響学会

Bb-605 13:00-14:30
 科学技術と社会を考えるゼミ
 コミュニティ研究会

Bb-607 13:00-14:30
 個別化医療の推進と個人情報管理～遺伝子研究の光と影
 独立行政法人 理化学研究所オミックス基盤研究領域

15:30-17:00

Bb-602 15:30-17:00
 科学のハナシ・こうして届けてます（ワークショップ編）
 科学技術広報研究会

Bb-604 15:30-17:00
 めげせ元素ハカセ!! 「元素検定 2012」
 元素周期表同好会

Bb-606 15:30-17:00
 私たちが受けた理科教育
 STS 研究サークル FRD

Bb-608 15:30-17:00
 日本へのプログラム概念の導入と PO の役割
 独立行政法人 科学技術振興機構 JST プログラムオフィサー研修院

13:00-14:30

15:30-17:00

Cb-802 15:00-17:00
 U20 科学研究者から児童・生徒へのメッセージ
 独立行政法人 科学技術振興機構 理数学習支援センター

11.11 (sun) タイムテーブル

TIME TABLE

A会場 日本科学未来館

10:00

10:30-12:00

1F	オリエンテーションルーム 1 (メイン入口側)			Ab-360 10:30-12:00 アゴラで宇宙箱舟ワークショップ! 2012 宇宙箱舟推進委員会	
	オリエンテーションルーム 1 (通用口側)			Ab-362 10:30-12:00 季刊理科の探検: RikaTan 面白実験 by 左巻編集長 左巻健男と『季刊 理科の探検: RikaTan』誌委員	
	オリエンテーションルーム 2 (メイン入口側)			Ab-365 10:30-12:00 ガウス加速器で遊ぼう! ~あっとおどろく磁石の工作~ 東京学芸大学 理科教育系学生有志団体 RIKA-Commu. (リカコミュ)	
	オリエンテーションルーム 2 (通用口側)			Ab-367 10:30-12:00 計算すれば何かが見える! 日本コンピュータ化学会	
	ステージ			Ab-369 10:30-12:00 SSH 高校生ディベート「遺伝子組換え食品は安全か」 岐阜県立岐阜農林高等学校	
7F	みらいCANホール			Ab-351 10:30-12:00 討議: 高レベル放射性廃棄物の処分はどうあるべきか!? 日本学術会議 高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会	
	イノベーションホール			Ab-354 10:30-12:00 科学演劇「目指せ! 色の鑑定士」本当の色を見やぶれ! チームわだ重	
	交流サロン			Ab-356 10:30-12:00 おしゃべりサイエンス茶話会 Science Air「おしゃべりサイエンス」事務局	
	会議室 2			Ab-358 10:30-12:00 みがけ! 問うチカラ~科学館を100倍楽しむ方法~ 日本科学未来館	

B会場 産業技術総合研究所

臨海副都心センター 別館

10:00

10:30-12:00

11F	多目的室			Bb-651 10:30-12:00 キャンセル 「ヒッグス粒子」発見で何が解決したのか? 計算基礎科学連携拠点	
	会議室 1			Bb-653 10:15-12:00 共に語ろう、東日本大震災後の海洋科学研究と教育 日本海洋学会 教育問題研究会	
	会議室 2			Bb-655 10:30-12:00 地球に生きる素養を身につけよう 日本学術会議 地球惑星科学委員会 社会貢献分科会	
	会議室 3				

C会場 東京都立 産業技術研究センター

10:00

10:30-12:00

5F	講堂			Cb-853 10:15-11:45 サイエンスアゴラ 2012 出張「ユニバース」 学生集団「ちもんず」	
----	----	--	--	--	--

13:00-14:30

15:30-17:00

Ab-361 13:00-15:00 ポーズ・ミーツ・カガク〜仏教 × サイエンス 「つくる、つながる、つかう」プロジェクト	
Ab-363 12:30-14:00 季刊理科の探検：RikaTan 面白実験 by 左巻編集長 左巻健男と『季刊 理科の探検：RikaTan』誌委員	Ab-364 14:30-16:00 季刊 理科の探検：『都会で暮らす野生動物たち』 左巻健男と『季刊 理科の探検：RikaTan』誌委員
Ab-366 13:00-15:30 博士号の真価を問う〜科学者だけが博士じゃない！？〜 科新塾 御茶ノ水	
Ab-368 13:00-14:30 出張ラボツアー：潜入！生命科学研究の最前線 独立行政法人理化学研究所 オミックス基盤研究領域	
Ab-370 13:00-14:30 第2回「22世紀の予言」コンクールアニメ上映会 日本大学芸術学部 「22世紀の予言」コンクール実行委員会	
Ab-352 13:00-14:30 国立天文台公開講演会 アルマ望遠鏡が描く新しい宇宙像 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台	Ab-353 15:30-17:00 サイエンスアゴラ 2012 総括セッション 独立行政法人科学技術振興機構
Ab-355 13:00-14:30 科学を街に ～科学フェスティバルの創り方～ 独立行政法人科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター、一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会	
Ab-357 13:00-14:30 科学の『押し売り』？ -無関心層になぜ・どうやって科学を伝えるのか- 科学コミュニケーション研究会	
Ab-359 13:00-14:30 どうつくる・使う？ 家庭や学校で役立つ科学誌 独立行政法人科学技術振興機構 理数学習支援センター サイエンスウインドウ編集部	

13:00-14:30

15:30-17:00

Bb-652 13:00-14:30 ジオツーリズムとパブリックアルケオロジの邂逅 ジオツーリズム研究会	
Bb-654 13:00-14:30 科学・技術広報って？～体験談からキャリアパスまで～ ウィークエンド・カフェ・デ・サイエンス (WEcafe) 事務局、一般財団法人 武田計測先端財団	
Bb-656 13:00-14:30 Inter-Personal Display: 人々が集う場の情報メディア JST-CREST 多人数調和型ディスプレイプロジェクト	

13:00-14:30

15:30-17:00

Cb-851 12:30-14:00 児童生徒の理系才能教育を考える～大学での取組事例をもとに～ 独立行政法人科学技術振興機構 理数学習支援センター	Cb-852 14:30-16:00 元気な部活動で理数の才能教育をめざす～科学部顧問による討論会～ 独立行政法人科学技術振興機構 理数学習支援センター
--	--

出展者さくいん

EXHIBITOR INDEX

Xa-000 …終日楽しめる出展【主催】
Xb-000 …時間枠出展（タイムテーブル）【主催】

Xa-000 …終日楽しめる出展【共催・後援等】
Xx-000 …時間枠出展（タイムテーブル）【共催・後援等】

Ab-xxx

出展形態
a → 終日楽しめる出展
b → 時間枠出展（タイムテーブル）

会場名 企画番号

出展者

- あ** iGEM 首都大学東京チーム **Aa-220**
 愛知工業大学 中野研究室 **Aa-029**
 あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク **Aa-023**
- い** イソガフスタジオ株式会社 **Aa-088**
 一般財団法人 高度技術社会推進協会 **Aa-079**
 一般財団法人 武田計測先端知財財団 **Bb-654**
 一般社団法人 宇宙エレベーター協会 **Ca-703**
 一般社団法人 蔵前工業会 蔵前理科教室ふしぎ不思議 **Aa-062**
 一般社団法人 生物多様性保全協会 **Aa-003**
 一般社団法人 ソーシャルテクニカ **Aa-013**
 一般社団法人 日本気象予報士会気象実験クラブ **Aa-048**
 一般社団法人 日本気象予報士会サニーエンジェルス **Aa-048 Aa-068**
 一般社団法人 日本サイエンスコミュニケーション協会 **Ab-355 Ab-357 Ab-370**
 一般社団法人 星空宇宙天文検定協会 **Ca-708**
 伊東豊雄建築設計事務所 **Aa-078**
 茨城県北ジオパーク推進協議会 **Aa-049 Ab-308**
 茨城大学 工学部 メディア通信工学科 矢内浩文研究室 **Aa-077**
 茨城大学工学部 赤羽秀郎 **Aa-077**
 茨城大学地質情報活用プロジェクト **Aa-049**
 岩手大学技術部工学系技術室 **Aa-080 Aa-081**
 INWES-Japan (国際女性技術者科学者ネットワーク) **Aa-043**
 International Lunar Observatory Association **Ab-310**
 インターネットラジオ局くりらじ **Ab-302**
- う** ウィークエンド・カフェ・デ・サイエンス (WEcafe) 事務局 **Bb-654**
 宇佐美 昭二准教授 (長浜バイオ大学) **Aa-236**
 宇宙箱舟推進委員会 **Ab-360**
 裏千家インターナショナルアソシエーション **Aa-225**
え ANA インターコンチネンタル万座ビーチリゾート **Ab-319**
 STS 研究サークル FRD **Bb-606**
 エスディエス株式会社 **Aa-015**
 NPO 法人 OSI 研究会 **Ab-319**
 NPO 法人科学芸術学際研究所 (ISTA) **Aa-059 Aa-060**
 NPO 法人環境サプリメント研究会 **Aa-042**
 NPO 法人市民科学研究室 **Ab-315**
 NPO 法人市民科学研究室・科学コミュニケーションツール研究会 **Ab-311**
 NPO 法人女性技術士の会 **Aa-042 Aa-043**
 NPO 法人富士山測候所を活用する会 **Aa-048**
 NPO 法人水元ネイチャープロジェクト **Aa-003**
 NPO 法人楽市楽園 **Aa-059**
お 桜美林大学リベラルアーツ学群 **Ab-317**
 大阪青山大学 「何でもどこでも科学」プロジェクト **Aa-083**
 Ode **Aa-034**
 岡山県立岡山御津高等学校 **Ca-715**
 岡山県立倉敷天城中学校 **Ca-718**
 沖縄県 **Ab-319**
 お茶の水女子大学 **Aa-027**
 お茶の水女子大学付属中学校科学部 **Aa-027**
 恩納村 **Ab-319**
 恩納村漁業協同組合 **Ab-319**
か 海後 竜生 (NPO 法人なかなかワーク) **Ca-707**
 科学館有志チーム **Aa-243**
 科学技術館 **Aa-016**
 科学技術広報研究会 **Aa-067 Bb-601 Bb-602**
 「科学研究を伝える広報誌制作手法の追究」研究チーム **Aa-203**
- 科学講座研究会 **Ca-706**
 科学コミュニケーション研究会 **Ab-357**
 #phdjp 科学と社会ワーキンググループ **Ab-315**
 科学の本の読み聞かせの会「ほんとほんと」 **Aa-071**
 科学読物研究会 **Aa-069 Aa-070 Ab-318**
 香川県 サイエンスボランティア **Ab-320**
 革新的細胞解析研究プログラム (セルイノベーション) **Ab-368 Bb-607**
 学生集団ちもんず **Aa-016 Ca-853**
 Casa Blu **Aa-026**
 柏の葉サイエンスエデュケーションラボ **Aa-082**
 科新塾 御茶ノ水 **Ab-366**
 学校連携チーム **Cb-801**
 金沢工業高等専門学校 **Aa-015**
 金沢工業大学サイエンスコミュニケーションプロジェクト **Aa-015**
 株式会社インクス **Aa-011**
 株式会社大川石材 **Ab-320**
 株式会社化学同人 **Aa-056 Bb-604**
 株式会社技術評論社 **Ca-711**
 株式会社キングジム **Ab-370**
 株式会社空スペース **Aa-075**
 株式会社 Guell **Aa-223**
 株式会社サクラクレパス **Ab-370**
 株式会社 SAMA 企画 **Aa-047 Ab-313 Ab-314 Ab-362 Ab-363 Ab-364**
 株式会社島津製作所 **Aa-228**
 株式会社スタジオミダス **Aa-058**
 株式会社セガトイズ 家庭用星空投影機 ホームスター **Ab-370**
 株式会社フィアラックス **Aa-058**
 株式会社 マイクロミュージアムラボラトリー **Aa-078**
 株式会社レイトロン **Aa-079**
 粥川準二 **Ab-321**
 川上 勝 (北陸先端科学技術大学) **Aa-058**
 川崎学園 川崎医科大学 現代医学教育博物館 **Aa-242**
 川崎市公害研究所 **Aa-042**
 環境技術情報センター **Aa-042**
 環境省 **Ab-319**
き 菊池誠 **Aa-037**
 岐阜県立岐阜農林高等学校 **Ab-369**
 教員有志チーム **Ca-714 Ca-720 Ca-721**
 京都大学宇宙総合学学際研究ユニット **Ab-360**
 京都大学 学術研究支援室 (URA 室) **Aa-218**
 京都府立大学生命環境科学研究科 Tomorrow's Table 翻訳グループ **Aa-031**
く 黒田 智 (長浜バイオ大学) **Aa-236**
 黒ラブ教授 (吉本興業) **Aa-019**
け 慶應義塾大学インターネット望遠鏡プロジェクト **Aa-006**
 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 小木研究室 **Aa-078**
 ケミストリー・クエスト株式会社 **Aa-057**
 研究者有志チーム **Aa-222**
 元素周期表同好会 **Aa-056 Bb-604**
こ 公益財団法人東京応化科学技術振興財団 **Aa-069 Aa-070 Ab-318**
 公益財団法人日本気象協会 **Aa-048**
 公益社団法人 日本技術士会 科学技術振興支援実行委員会 **Aa-004**
 公益社団法人 日本技術士会 環境部会 **Aa-003**
 国土防災技術株式会社 **Aa-021**
- 国立科学博物館サイエンスコミュニケーター・アソシエーション **Aa-216**
 子ども会 **Ab-320**
 コミュニティ研究会 **Bb-605**
 昆虫料理研究会 **Aa-089**
さ SciArt ワークショップ 参加者有志 **Aa-223**
 Science Air 「おしゃべりサイエンス」事務局 **Ab-356**
 Science Edge (サイエンス・エッジ) **Da-901**
 サイエンスカフェ戸 **Ab-308**
 サイエンスカフェを考える会 **Aa-040**
 サイエンスコミュニケーションネットワーク横串会 **Aa-040**
 サイエンス・サポート函館 **Aa-055 Aa-235**
 埼玉県立伊奈学園総合高等学校 IINA サイエンスプロジェクト **Ca-717**
 埼玉県立浦和東高等学校 SPP **Aa-072**
 埼玉県立教育総合センター **Aa-078**
 埼玉大学教育学部天文学研究室 **Ca-717**
 財団法人 茨城県科学技術振興財団つくばサイエンスツアーオフィス **Aa-233**
 財団法人 上田市地域振興事業団 「上田創造館」 **Aa-239**
 斉藤勝司 **Ab-321**
 佐久市子ども未来館 **Aa-230**
 佐藤 真一郎 **Aa-020**
 佐藤 実 **Aa-073**
 佐野和美 **Aa-038**
 左巻健男と『季刊 理科の探検: RikaTan』誌委員 **Aa-047 Ab-313 Ab-314 Ab-362 Ab-363 Ab-364**
 産業技術総合研究所 **Ab-306**
- し** JST-CREST 「共生社会に向けた人間調和型情報技術の構築」領域 聴空間共有プロジェクト **Ca-224**
 JST-CREST 多人数調和型ディスプレイプロジェクト **Bb-656**
 JST CREST uDialogue プロジェクト (名古屋工業大学・エジンバラ大学) **Aa-202**
 JST・RISTEX 科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム「STI に向けた政策形成プロセスへの関心層別関与フレーム設計」(代表: 加納圭) **Ab-357**
 ジオツーリズム研究会 **Bb-652**
 四季報事務局 **Aa-214**
 静岡科学館る・く・る (指定管理: 公益財団法人静岡市文化振興財団) **Aa-238**
 自然科学研究機構国立天文台天文情報センター 科学文化形成ユニット **Aa-015**
 島津グループ (島津理化 / 島津製作所) **Aa-228**
 島原半島ジオパーク推進連絡協議会および雲仙岳災害記念館 **Aa-050**
 樹徳高等学校理科部 **Aa-017**
 首都大学東京 TMU-SFC **Aa-014**
 食のコミュニケーション円卓会議 **Aa-018**
 食用昆虫科学研究会 (e-ism) **Aa-089**
 Johns Hopkins University: Art as applied to Medicine **Aa-223**
 新日本電工株式会社 **Aa-087**
す 杉並区立科学館 **Aa-039**
せ 「生成マナリー」総括班 (文部科学省新学術領域研究) **Aa-053**
 専門学校東京テクニカルカレッジ **Aa-044**
そ Society of Advanced Science 東海大学 **Aa-222**
た Tane+1 LLC **Aa-223**
 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台 **Ab-352**
 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 **Aa-204**
ち チーム美らサンゴ **Ab-319**
 チームわだ重 **Aa-028 Ab-354**
 地球惑星科学連合 **Bb-655**

出展者

千葉県立中央博物館	Aa-237	(独) 理化学研究所 オミックス基盤研究領域	Ab-368 Bb-607	北海道教育大学「21世紀型実践的指導力を有した理科教員の養成・支援プログラムの開発」プロジェクト	Aa-063
千葉市科学館	Aa-237 Aa-240	(独) 理化学研究所 仁科加速器研究センター	Aa-201	北海道総合政策部科学 IT 振興局科学技術振興課	Aa-055
千葉市科学館 教育普及特任チーム	Aa-231	(独) 理化学研究所 横浜研究所 新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター	Ab-316	北海道大学 CoSTEP	Aa-232
千葉市動物公園	Aa-237	豊田工業高等専門学校	Aa-085	北極環境研究コンソーシアム	Aa-033
千葉大学	Aa-231	名古屋サイエンスコミュニケーション教育研究会	Aa-203	マイクログフトスタジオ ねこのてぶくろ亭	Ca-709
千葉大学大学院理学研究科櫻井建成准教授	Aa-072	名古屋造形大学	Aa-223	毎日小学生新聞	Ab-370
地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター	Aa-041 Ca-701 Ca-723 Ca-724	名古屋大学	Aa-223	毎日新聞社	Ab-370
つ 筑波大学	Aa-223	名古屋大学 産学官連携推進本部 あいちサイエンスフェスティバル事務局	Aa-023	松江工業高等専門学校	Aa-054
筑波大学芸術系 田中佐代子研究室	Aa-002	名古屋大学 社会貢献人材育成本部 ビジネス人材育成センター	Aa-035	み 三浦学苑科学部	Da-901
筑波大学サイエンスコミュニケーショングループ SCOUT	Aa-215	名古屋大学大学院理学研究科・理学部広報委員会	Aa-203	みたか科学文化の会有志	Aa-046
筑波大学社会貢献プロジェクト	Aa-215	名古屋大学ミュージアム活性化プロジェクト NUMAP	Aa-022	みつばちきくや	Ab-308
筑波大学大学院システム情報工学研究科知能機能システム専攻柔軟ロボット学研究室	Aa-008	なんてん (高校生物教諭 井上 陽子)	Aa-236	三菱電機株式会社	Aa-051 Aa-052
「つくる、つながる、つかう」プロジェクト	Ab-361	に ニコニコ科学研究所	Ab-320	ミニ・エクスプロラトリウムを創る会	Aa-064
つゆねこ企画	Ca-710	2011年中央ろうきん助成プログラム	Aa-068	も 文部科学省 感染症研究国際ネットワーク推進プログラム (J-GRID)	Ab-316
て 電気学会	Ba-401 Da-904	日本エヌ・ユー・エス株式会社	Aa-244	文部科学省脳科学研究戦略推進プログラム	Aa-007
電気通信大学 同窓会：目黒会	Aa-064	日本海洋学会 教育問題研究会	Bb-653	山口大学時間学研究所	Aa-211
電気理科クラブ	Ba-401 Da-904	日本科学未来館	Aa-001 Aa-221 Ab-306 Ab-324 Ab-358 Ab-309	山口大学時間学研究所 明石研究室 (時間生物学研究室)	Aa-211
と 東海大学 supporting science experiment	Aa-084	日本科学未来館 曾根 剛、河井 弘典	Ca-713	山本 伸 (サイコムキャリア)	Ab-315
東海大学付属高輪台高等学校	Ca-716	日本科学未来館ボランティア有志	Da-901	ゆ ユニットセンス・オブ・センシング	Ca-712
東京学芸大学 理科教育系学生有志団体 RIKA-Comm. (リカコミュニ)	Ab-365	日本学術会議	Ab-303 Ab-304	Universal Earth	Ab-307
東京工科大学バイオ情報メディア研究科	Ab-317	日本学術会議 科学と社会委員会科学力増進分科会	Ab-305	University of Toronto: BioMedical Communications	Aa-223
東京工芸大学	Ba-401 Da-904	日本学術会議 高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会	Ab-351	よ 横浜国立大学気象学研究室	Aa-048
東京国際交流館	Ab-306	日本学術会議 地球惑星科学委員会 社会貢献分科会	Bb-655	横浜物理サークル	Da-901
東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST	Aa-066	日本薬学生連盟	Ab-315	横山雅俊 (市民科学研究室)	Ab-315
東京大学生産技術研究所	Aa-226	日本光合成学会	Aa-010	よしもとクリエイティブ・エージェンシー	Aa-019
東京大学大学院情報学環教育部自治会サイエンスゼミ	Aa-213	日本光合成学会 若手の会	Aa-010	り 理科教育研究フォーラム	Aa-044
東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF)	Aa-005	日本コンピュータ化学会	Aa-058 Ab-367	理科読シンポジウム事務局	Aa-070
東京電機大学理工学部理学系物理学コース	Aa-086	日本人類学会教育普及委員会	Aa-241	理科読をはじめよう実行委員会	Aa-070
東京都生物教育研究会	Aa-241	日本大学芸術学部 「22世紀の予言」コンクール実行委員会	Ab-370	理科ハウス・世界一小さい科学館	Aa-245
東北大学	Aa-223	日本大学理工学部	Ca-703	わ かわくわく科学クラブ	Aa-065
東北大学 サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター	Aa-208	日本第四紀学会教育アウトリーチ委員会ジオパークワーキンググループ	Bb-652	和光純薬工業株式会社	Aa-232
東北大学女性研究者育成支援推進室 サイエンス・エンジェル	Aa-074	日本地理学会ジオパーク対応委員会	Bb-652	早稲田摂陵中学校・高等学校 水虫先生と仲間たち (生物研究部)	Aa-227 Aa-234
東北大学分子イメージング研究推進室	Aa-208	日本テレレーションデザイン協会	Ca-705	早稲田大学放射線教育研究グループ	Aa-009
徳島大学 プロジェクトマネジメント推進室	Aa-219	日本電子株式会社	Aa-240		
(独) 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)	Ca-717	日本放射線影響学会	Bb-603		
(独) 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙医学生物学研究室	Ab-309	日本ミクニヤ株式会社	Aa-244		
(独) 海洋研究開発機構	Aa-207	任意団体 まなび	Aa-217 Aa-246		
(独) 科学技術振興機構	Aa-027 Aa-055 Ab-301 Ab-353 Ab-370 Bb-603 Ca-717	の 農かがく	Aa-076		
(独) 科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター	Ab-323 Ab-355	は 博士 @Ph.D. と愉快な仲間達	Ca-711		
(独) 科学技術振興機構 JST プログラムオフィス 研修院	Bb-608	畠山 茂昭 (長浜/バイオ大学)	Aa-236		
(独) 科学技術振興機構 地球規模課題国際協力室	Aa-045	八戸工業高等専門学校	Aa-036		
(独) 科学技術振興機構 理数学習支援センター	Ca-719 Ca-722 Cb-802 Cb-851 Cb-852	八戸市 学生街づくりコンペティション	Aa-036		
(独) 科学技術振興機構 理数学習支援センターサイエンスウインドウ編集部	Ab-359	はやのん理系漫画制作室	Ca-704		
(独) 国立がん研究センターがん対策情報センター たばこ政策研究部	Aa-011	原田産業株式会社	Aa-011		
(独) 国立がん研究センター研究所・がん予防研究分野	Aa-209	半魚人倶楽部	Aa-244		
(独) 日本原子力研究開発機構 那珂核融合研究所	Da-902	ひ 久田旭彦 (徳島大学 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部)	Aa-221		
(独) 農業生物資源研究所	Aa-012 Aa-058 Ab-369	日立技術士会	Aa-005		
(独) 物質・材料研究機構	Aa-205	ピッキオ	Aa-027		
(独) 防災科学技術研究所	Aa-206	ふ フアラデーの本棚	Aa-070		
		プロダクトデザイナー 吉田晃永 (アルテサーノ)	Aa-077		
		Protein Data Bank japan (日本蛋白質構造データバンク)	Aa-210		
		ほ 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科	Aa-212		

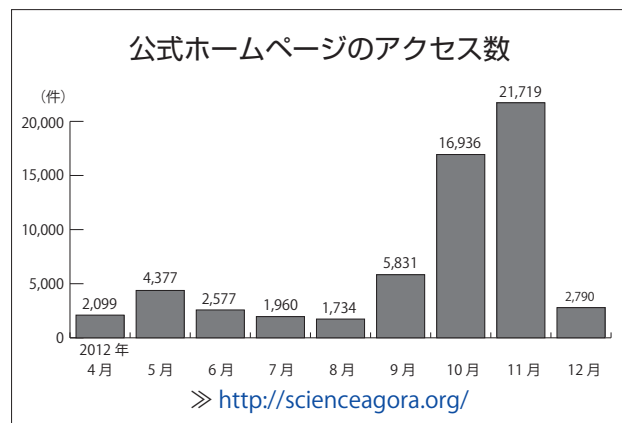
※本索引に掲載されている出展者の情報は、原則として10月11日時点で明らかになっていたものに基づきます。また、主催者の真において、可能な範囲で表記揺れ等を統一しています。

来場者の皆さまより

- ・自分も出展者・関係者の立場になりたいと思いました。(40代男性)
- ・民間企業などとも協力して開催してほしい。(30代男性、技術開発・研究系)
- ・地方でも行ってほしい。もっと多くの子供が体験できるよう学校参加等を考えてほしい。(50代男性、技術開発・研究系、お子様連れ)
- ・有料であっても本格的に工作や実験などきちんとしたものも続けてほしい。小学生でも理科、科学の実験に興味をわく機会、高度なものでもできるチャンスを増やしてほしい。(40代女性、お子様連れ)
- ・いくつかセッションに参加しましたが、その後自由に話せる場所と時間があるとよいです。(30代男性)
- ・もう少し講演会的なものが多くてもよかったです。黒ラブ教授のような異色のサイエンスコミュニケーションは人目を引く上、勉強になる。(30代男性、技術開発・研究系)
- ・子供向けの展示が多くて、もう少し学生向けの展示も増やしてほしい。(男性、高専・大学生)
- ・以前、ノーベル賞をとられた根岸先生の講演を息子と2人でできました。またノーベル賞受賞者のお話をききたいです。(40代女性、お子様連れ)
- ・文系の内容とか社会科学とかもあると楽しそうだなと思います。(女性、高校生)

出展者の皆さまより

- ・多くの異分野の方々と交流を深めることができました。
- ・他の出展も楽しく拝見しました。色々な方と意見交換が出来て有意義でした。また、今回のゾーニングはいいアイデアだと思いました。
- ・こんなに科学に携わり、広めようと努力をされている方がいらっしたんだと、いかに自分が狭い範囲だけで過ごしてきたかが分かった貴重な体験をしました。
- ・中学生、高校生、大学生による出展をみて若い人の一生懸命の姿から将来への期待を抱きました。
- ・質問や励ましの言葉を頂戴し、生徒達にとって発表の難しさや探究のあり方を学ぶとともに次への意欲が湧く場となりました。来年度は実験を体験してもらえるように今から準備したいと話合っています。
- ・出展者同士のディスカッションや、優れたサイエンス・コミュニケーションの事例を知ることができて大変有意義だった。
- ・目的的交流および連携パートナーの発掘ができました。またブース展示を通して活動コンセプトを理解していただきました。
- ・他の出展をあまり見て回れなかった。例えば NetCommons などのコミュニティウェアを活用し、出展後や自宅でも何らかの形で参加できる仕組みなどでできればよいと思った。地方の人は参加が大変では？
- ・出展すると他団体の出展を見て回ることも出展者同士で交流を深めることもできないことに気づいた。科学コミュニケーション関係者のためなのか、一般の方向けのイベントなのか明確に区別した方がよいと思った。
- ・初めての出展でしたが、HP や交流の大切さを非常に感じました。特に他府県の方で、HP を見て下さっていらっした方から声を掛けられびっくりすると同時に、更新管理の大切さを実感しました。
- ・「伝える」から、より積極的に「関わり、考える」事大切さを感じました。



ご協力者コメント

田中佐代子さん (筑波大学芸術系 准教授)

サイエンスアゴラ 2012 のチラシ・ポスターデザインを、筑波大学芸術専門学群 2 年生対象「ビジュアルデザイン基礎演習 II-A」の授業課題として、2012 年 4 月～6 月に行いました (授業担当：田中佐代子)。受講者は 35 人でした。アイデアスケッチを作成し、パソコンで完成させるというプロセスを経て、最終的に青木風人によるサイエンスアゴラの会場風景をテーマとしたデザインが採用されました。

譚嘯さん (東京工業大学社会理工学研究科 修士課程)

東工大からのインターン生として、アゴラ開催当日に出展者インタビューを行いました。
『科学に基づいた、食のコミュニケーションを！』：「放射線照射食品は、海外では安全検査基準に達し普及しているが、日本市場では消費者の不安のため普及しておらず惜しいことだ」と出展者の方が話してくれました。ここから、市場メカニズムが技術普及に深く関わっていると考えました。
『脳でマシンが動く!? 脳科学がつなぐ人とマシンの世界』：多くの来場者が、脳の活動情報を利用して脳と機械をつなぐ BMI 技術を楽しんで体験していました。このような企画を通じ、来場者と科学技術の距離がより近くなりました。



▲ 筑波大の学生さんに授業課題としてデザインに取り組んでいただきました。



▲ 青木風人さんのデザインがポスター・チラシになりました。

サイエンスアゴラは、サイエンスをとおしてみんながつながる「ひろば」です。

どんな人たちが出展するの？

→普段は、大学生や会社員、研究者、教員、アーティスト、主婦…さまざまなバックグラウンドを持つ多様な方々が自分たちで工夫した企画を実施しています。

どんな出展があるの？

→出展形式は、サイエンスを楽しむ実験教室やサイエンスショー、考えを深め共有するワークショップやシンポジウムなど。多様な企画を全国から募集します。出展する人たちのネットワークも広がります。

サイエンスアゴラ 2012 出展形式別のプログラム数
(※応募時のカテゴリをもとに事務局で分類)

終日出展・・・145	ブース	66
	ポスター	38
	実演・工作	41
時間枠出展・・・57	シンポジウム・トークセッション	21
	ワークショップ・サイエンスカフェ	31
	サイエンスショー・上映・演示	5
その他	複合型、特殊スペースなど	10

プログラム数 計

212

サイエンスアゴラ 2012 出展者の方たちにうかがいました！

“つながった”相手やいきさつについて

- ・準備段階から、今まで交流のなかった方々とともに苦勞し、支えていただき、とても刺激をいただきました。
- ・普段の勉強会の成果発表だったのですが、メディアに成果を載せないかと誘われたり、高校の科学部の先生・生徒から同じ形式の調査をしたいので協力してくれないかと依頼されたり、科学コミュニケーション専門家やメディア研究者、実務家などからコラボレーションを打診されたりしております。
- ・ディベートを実施するにあたり、企業やNPO法人、研究所の方等、多くの方とつながりができた。
- ・昨年の展示が印象的だったとの小学生が今年も来場。彼は昨年の展示がきっかけとなり、物理に興味をわき、それを生かした資格を取得したとのこと。
- ・高校理科教育キットの展開を目的に出展させていただきました。相手方は、学校での面白い実験教材を探されており、お互いに目的がうまく合い、後日訪問しての説明会が実現できるところまで話がつながりました。
- ・サイエンスカフェやサイエンスコミュニケーションに興味はあるが、誰に聞けばいいかわからなかった人が、展示を見て質問してきた。
- ・ツイッターなどでコミュニケーションをとっていたものの、一度も会ったことのない方々が多く訪れてくださった。
- ・非常に多くの出展があり、参加者も非常にたくさんの皆さんがいますが、“つながる”ためには、自分から一歩前に出ることが大切だ、と感じます。

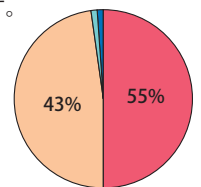
次回出展・参加者へのメッセージ

- ・様々な『つながり』を見つけることができるアゴラへ、ぜひ、ご参加ください！
- ・楽しいことや夢のあることも大事だが、楽しいだけでなく大事なことも向きあって、みんなで対話するのがサイエンスアゴラです。
- ・年々来場者も出展者も多様性が増している印象です。実践の場としても、意見交換の場としても有意義と考えます。
- ・アゴラの間を、自分たちの活動を振り返り、価値を捉え直す機会として活用しています。
- ・情報の発信だけでなく、来場者や他の出展者との科学コミュニケーションを楽しんでください。
- ・SNSなどヴァーチャルな場でのつながりだけでなく、リアルな場でおこるハプニングを楽しみましょう！
- ・普段接することができないような人（研究者だったり、来場者だったりいろいろです）との出会いの場として、おすすめです。
- ・折角いろんな人が集まるアゴラの間、積極的に活用してたくさんの人たちの声を聞いてみましょう！
- ・この7年間でサイエンスアゴラも成長してきました。同時に出展する側もノウハウを積んで成長してきたと思います。サイエンスアゴラは出会いと成長のよい機会になると思います。

次回出展の意向

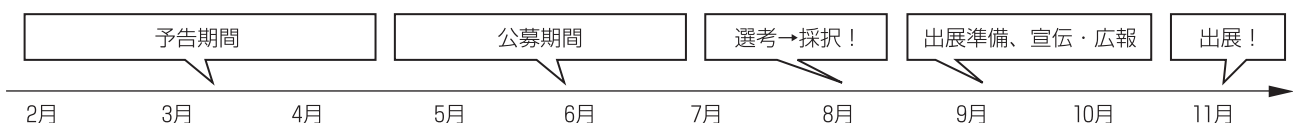
「次回のサイエンスアゴラは2013年11月9日(土)～10日(日)を予定しています。ご出展の意向をお聞かせください。」(N=120)

- 次回も出展したい
- 次回も出展したいが、スケジュールや予算次第である
- 次回は出展はせず、参加のみしたい (1%)
- 次回は出展も参加もしたくない (1%)



サイエンスアゴラ 2013 出展タイムライン

(詳細は4月頃、公式ウェブサイトでご公開予定) >> <http://scienceagora.org/>



編集後記 いろいろな立場の方がサイエンスアゴラに関わってください、日ごろの活動や想いを知り、本当に頭が下がる思いで事務局を務めました。アゴラから、皆さんの活動がどのように新たな連携や発展をするのかとても楽しみです。[NI] / サポーター、企画委員などを経て、今回は事務局としておつきあいましたサイエンスアゴラ。2日間の開催で200を超える企画が集結し、とても密度の濃いプログラムになりました。皆さまからいただいたご助言も批判も次回に向けて活かしていきます。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。[AM] / 初めてイベントの企画に携わり、右も左もわからない状態のスタートでしたが、多くの方に支えられ、なんとが事務局の一員としての役割を果たすことができたかなと感じています。たくさんのごことを学び、とても貴重な経験ができた数ヶ月間。アゴラに関わってくださった皆様ありがとうございました。[SS]

[次回予定] サイエンスアゴラ 2013

2013年11月9日(土)～10日(日) 東京・お台場地域にて開催



<http://scienceagora.org/>



サイエンスアゴラ 2012